

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010010

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 【平成30年度】グレーダ3.7m級 41,200千円
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	建設機械整備事業		見直し年度			
事業期間	平成27年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	建設機械の更新台数		関係課	#N/A		
事業目標	3台		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
全体計画 事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	○経過年数11年以上の補助対象建設機械の更新事業 ・更新台数～3台	ロータリ除雪車 1台		小型除雪車(ロータリ) 1台		ショベル(現有機種:日立) 1台	
	事業費(千円)	102,600	42,100	0	25,300	0	35,200
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	58,900	27,400		11,700		19,800
	道支出金	0					
	地方債	36,200	13,800		8,800		13,600
	その他	0					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	79,113	33,693	0	20,819	0	24,601
	財源内訳						
	国庫支出金	43,797	18,720		11,700		13,377
	道支出金	0					
	地方債	31,600	14,100		8,100		9,400
	その他	0					
	一般財源	3,716	873		1,019		1,824
関 連 事 項	特定財源の名称 ・社会資本整備総合交付金 (補助率2/3) ・地方債(過疎)100%	【評価・実績】	(実施内容等) ロータリ除雪車 1台	(実施内容等)	(実施内容等) 小型除雪車(ロータリ) 1台	(実施内容等)	(実施内容等) ショベル 1台
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1台		1台		1台
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	80%	#DIV/0!	82%	#DIV/0!	70%
	全体達成率	33%	33%	53%	53%	77%	
	備考欄						

事業名	建設機械整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	建設機械の故障により、維持管理作業が実施できないことによる通行障害	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	建設機械の更新台数	
【抱える課題やニーズは】	冬期間の除排雪を含めた道路維持管理の実施による町道等の円滑な通行が確保できないこと	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	建設機械を更新することによる作業能率の向上	① 建設機械の更新台数/建設機械の更新台数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の除排雪を含めた道路維持管理の実施による町道等の通行及び安全性の確保		目標値	1台
			実績値	1台
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間による物品購入の実施	入札により民間に発注し、除雪ドーザを購入した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	冬期間の除排雪を含めた道路維持管理を実施し、町道等の通行及び安全性を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり		全部	
		一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	除雪ドーザを更新したことにより、作業能率が向上したこと、また、故障による修繕費の軽減が図られた。
有効/概ね有効/課題あり		達成	
		ほぼ達成	
		下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	更新前より作業能率が向上したことで、除排雪作業の時間短縮が図られたこと、また、故障による修繕費が軽減となり、事業費が抑制されたことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり		事業費抑制	
		人員削減	
		時間短縮・作業軽減	
		その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本事業を実施したことにより、道路維持管理を実施し、町道等の通行及び安全性を確保できたことは、不特定多数の道路利用者に対し公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない		受益者負担がある	
		受益者負担がない	
		受益が一部に偏る	
		その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
冬期間の除排雪を含めた道路維持管理を実施するためには必要な事業であるため、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
冬期間の除排雪を含めた道路維持管理の実施による町道等の円滑な通行の確保を図ることは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010020

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ・維持事業であるため、毎年実施する事業であります。
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	除雪事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	除雪延長		#N/A	
事業目標	807.9km	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加 住民協働	有 広報等による協力要請	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	○除雪延長L=807.9km ・民間委託による除雪延長 L=723.8km ・直営による除雪延長 L= 84.1km	除雪延長 L=160.7km ・委託 L=143.9km ・直営 L=16.8km	除雪延長 L=162.0km ・委託 L=145.2km ・直営 L=16.8km	除雪延長 L=162.1km ・委託 L=145.1km ・直営 L= 17.0km	除雪延長 L=161.8km ・委託 L=144.8km ・直営 L= 17.0km	除雪延長 L=161.3km ・委託 L=144.8km ・直営 L= 16.5km	
	事業費(千円)	331,915	58,416	62,800	65,953	71,426	73,320
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	43,180	7,200	9,200	5,980	9,600	11,200
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	448,364	67,480	87,781	90,874	84,608	117,621
	財源内訳						
	国庫支出金	38,111	5,310	9,200	8,778	7,213	7,610
	道支出金	0					
	地方債	0					
関 連 事 項	特定財源の名称 ・社会資本整備総合交付金 (補助率2/3)	410,253	62,170	78,581	82,096	77,395	110,011
	【評価・実績】	(実施内容等) 除雪延長L=159.9km ・委託L=143.1km ・直営L= 16.8km	(実施内容等) 除雪延長L=161.8km ・委託L=145.0km ・直営L= 16.8km	(実施内容等) 除雪延長L=162.0km ・委託L=145.0km ・直営L= 17.0km	(実施内容等) 除雪延長 L=161.3km ・委託 L=144.8km ・直営 L= 16.5km	(実施内容等) 除雪延長 L=161.3km ・委託 L=144.8km ・直営 L= 16.5km	
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	159.9km	161.8km	162.0km	161.3km	161.3km
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	116%	140%	138%	118%	160%
	全体達成率	20%	47%	74%	100%	135%	
	備考欄						

事業名	除雪事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	除雪延長								
【抱える課題やニーズは】	降雪等による交通障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性の確保	① 除雪延長/除雪延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>161.3 km</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>161.3 km</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	161.3 km	実績値	161.3 km	達成度	100.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	161.3 km										
実績値	161.3 km										
達成度	100.0 %										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	冬期間の交通及び安全性の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0! %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	<p>①直営と民間委託による除雪の実施</p> <p>②直営による排雪の実施</p>	<p>除雪は、直営分で借上げた運転手4名及び添乗員3名と職員運転手2名で16.5kmを、委託分は民間業者により144.8kmを行った。また、今冬期も平年に比べて降雪量が多かったため、増額補正を行った。</p> <p>排雪は、不足運転手及び機械を民間業者から借上げ、直営で実施した。また、今冬期も平年に比べて降雪量が多かったことから、排雪運搬機械等の借上料及び燃料費の増額補正を行った。</p>									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性の確保は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性が確保された。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	前年度に引続き、コストに見合った効果が得られたため、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性を確保できたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
冬期間の除排雪は、交通確保上必要不可欠なものであることから、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
冬期間の除排雪は、降雪量により左右されるが、交通確保のためには必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010030

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 道路整備が終了する都度、道路台帳の更新整理を行う事業であります。
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	道路台帳補正更新事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	道路台帳補正延長		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
事業目標	3,140m		関係例規・法令名			
住民参加	無		関係個別計画名			
住民協働						

		全体計画 事業内容	平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	○道路台帳補正 L=3,140m		道路台帳補正 L=850m	道路台帳補正 L=520m	道路台帳補正 L=300m	道路台帳補正 L=680m	道路台帳補正 L=790m
	事業費(千円)	6,800	1,200	1,100	1,100	1,700	1,700
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	6,800	1,200	1,100	1,100	1,700	1,700	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	6,274	1,166	1,069	1,069	1,350	1,620
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	6,274	1,166	1,069	1,069	1,350	1,620	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 道路台帳補正L=910m	(実施内容等) 道路台帳補正L=480m	(実施内容等) 道路台帳補正L=232m	(実施内容等) 道路台帳補正L=590m	(実施内容等) 道路台帳補正L=825m
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	910m	480m	232m	590m	825m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		97%	97%	97%	79%
	全体達成率		17%	33%	49%	68%	92%
	備考欄						

事業名	道路台帳補正更新事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	道路台帳補正延長	
【抱える課題やニーズは】	更新された道路情報を更新できない	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路整備が完了した道路の台帳管理	① 道路台帳補正延長/道路台帳補正延長	目標年度	平成29年度
			目標値	825 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適正な維持管理	②	実績値	825 m
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による委託の実施	見積りにより民間業者に委託し、道路台帳の補正更新を実施する。	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路等の整備を実施した路線の台帳を補正更新することは、維持管理上、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、適正な維持管理が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	本町の道路台帳整備を初年度から受託している業者に依頼することで、台帳更新に伴う経費の削減が図られたため、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	整備が完了したすべての道路に対して、台帳の更新整備を実施することは、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
道路台帳を整備更新することは、維持管理上、必要であるため、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		
↓	↓	↓
今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
道路整備が完了した道路を維持管理する上で、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010040

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町内小工事事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	町道舗装等の補修		関係課	#N/A		
事業目標	適切な補修		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	○町道の舗装、排水、法面等の応急的な補修工事	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式
	事業費(千円)	34,100	5,700	6,500	6,900	7,500
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	34,100	5,700	6,500	6,900	7,500	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	34,736	5,689	6,064	6,899	8,826
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	34,736	5,689	6,064	6,899	8,826	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 舗装補修外1式	(実施内容等) 舗装補修外1式	(実施内容等) 舗装補修外1式	(実施内容等) 舗装補修外1式
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	適切な補修	適切な補修	適切な補修	適切な補修
	(継続有り)	年度達成率		93%	100%	118%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	17%	34%	55%	81%
	備考欄					102%

事業名	町内小工事事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町道舗装等の補修件数								
【抱える課題やニーズは】	道路未補修による交通障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町道の舗装、排水等の応急補修による現況復元	① 町道舗装等の補修件数/町道舗装等の補修件数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>5件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>5件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	5件	実績値	5件	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	5件										
実績値	5件										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町道の通行の安全確保の維持	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	見積りにより民間業者に工事を発注し、補修を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道の舗装、排水等の応急的な工事により、通行の安全を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該工事を実施したことにより、通行の安全確保が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	応急的な対応を行うための予算を措置し、早期に対応できたことは、被害拡大の防止が図られ、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町道の舗装、排水等の応急的な工事により、通行の安全を確保できたので、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
応急的な補修工事ができたことは、町道の安全な通行上、今後も必要な事業であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
町道の安全な通行のために、応急的な補修工事に対応することは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010050

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町道排水管路清掃事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	排水管路清掃延長		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
事業目標	18, 170m		関係例規・法令名			
住民参加	無		関係個別計画名			
住民協働						

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	○雨水等による道路排水の流量確保のための排水管路の清掃 管路清掃延長 L=18, 170m	管路清掃延長 L=3, 450m	管路清掃延長 L=3, 450m	管路清掃延長 L=3, 690m	管路清掃延長 L=4, 000m	管路清掃延長 L=3, 580m	
	事業費(千円)	27,619	4,600	5,100	5,919	6,000	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	27,619	4,600	5,100	5,919	6,000		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	27,482	4,589	5,098	5,908	5,893	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	27,482	4,589	5,098	5,908	5,893		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 管路清掃延長L=3,450m	(実施内容等) 管路清掃延長L=3,600m	(実施内容等) 管路清掃延長L=3,730m	(実施内容等) 管路清掃延長L=3,980m	
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	3, 450m	3, 600m	3, 730m	3, 980m	3, 465m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	100%	100%	98%	100%
		全体達成率	17%	35%	56%	78%	100%
	備考欄						

事業名	町道排水管路清掃事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	排水管路清掃延長	
【抱える課題やニーズは】	豪雨等による道路、家屋等への浸水	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路排水の流量の確保	① 排水管路清掃延長/排水管路清掃延長	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	円滑な排水を促すことによる豪雨時における安全な通行の確保、家屋等への浸水防止		目標値	3.465 m
			実績値	3.465 m
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間委託により実施	排水管路の清掃は、見積りにより1m当たりの単価を決め、受注業者調査結果をもとに、排水管路清掃路線を決定し実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路排水の流入を確保することは、安全な通行や家屋等への浸水防止の点からも、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり		全部	
		一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、円滑な排水が促され、豪雨による家屋等への浸水防止が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり		
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	受注業者の調査により、排水管路の閉塞箇所が特定でき、適切な排水管路の清掃ができたことは、事業費の抑制となり、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり		
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	道路排水の流入確保による安全な通行や家屋等への浸水防止を実施したことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない		
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
円滑な排水と浸水防止のためには、今後も計画どおりに事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
道路排水の流入確保は、円滑な排水と浸水防止のためには、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 休止 廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010060

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道等維持業務委託事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	砂利敷延長、路面整正延長		#N/A	
事業目標	20,000m、1,150,000m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	○町道等の砂利道整備 ・砂利敷延長 L=20,000m ・路面整正延長(2回(春、秋)実施) L=1,150,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	
	事業費(千円)	25,070	4,300	4,700	4,950	5,350	5,770
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	25,070	4,300	4,700	4,950	5,350	5,770	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	23,821	4,150	4,584	4,657	4,974	5,456
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	23,821	4,150	4,584	4,657	4,974	5,456	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 砂利敷延長 L= 4,190m 路面整正延長L=148,806m	(実施内容等) 砂利敷延長 L= 3,930m 路面整正延長L=393,900m	(実施内容等) 砂利敷延長 L= 4,340m 路面整正延長L=140,766m	(実施内容等) 砂利敷延長 L= 4,590m 路面整正延長L=108,344m	(実施内容等) 砂利敷延長 L= 4,600m 路面整正延長L=77,096m	
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	4,190m、148,806m	3,930m、393,900m	4,340m、140,766m	4,590m、108,344m	4,600m、77,096m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	97%	98%	94%	93%	95%
	全体達成率	17%	35%	53%	73%	95%	
	備考欄						

事業名	町道等維持業務委託事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	①砂利敷延長 ②砂利道整正延長		
【抱える課題やニーズは】	町道等の砂利道の通行障害		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	砂利道の不陸の解消		① 砂利敷延長/砂利敷延長	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町道等の砂利道の安全な通行の確保			目標値	4,600 m
			実績値	4,600 m	
			達成度	100.0 %	
			② 砂利道整正延長/砂利道整正延長	目標年度	平成29年度
				目標値	77,096 m
			実績値	77,096 m	
			達成度	100.0 %	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間委託により実施	砂利敷委託業務は、入札により民間業者が実施し、路面整正委託業務は、砂利道を熟知し、グレーダ運転手を抱えている民間業者に雄武町所有のグレーダを貸与し実施した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道等の砂利道の円滑な通行を確保するためには、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、砂利道の不陸の解消され、安全な通行が確保された。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	砂利敷きの補充材として、平坦部では切込砂利より安価なズリを使用し、路面整正では、凸凹の少ない路線を省くことで延長を縮小し、事業費の抑制を図ったことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町道等の砂利道の安全な通行が確保されたので、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町道等の砂利道の安全な通行確保のためには、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
町道等の砂利道の安全な通行確保のためには、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010070

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道防雪柵設置事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	防雪柵設置・撤去延長		#N/A	
事業目標	3,327m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	○防雪柵の設置・撤去総延長 L=3,327m ・北幌内7号線外5路線の吹溜式防雪柵の設置撤去延長 L=2,984m ・音稲府6号線外4路線の吹払式(固定式)防雪柵の草地出入口部の設置撤去延長 L=343m	防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m)	
	事業費(千円)	10,600	1,800	2,000	2,100	2,300	2,400
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	10,600	1,800	2,000	2,100	2,300	2,400	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	10,255	1,741	1,900	2,040	2,251	2,323
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	10,255	1,741	1,900	2,040	2,251	2,323	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 防雪柵設置撤去延長 L=665.4m (吹溜式 L=596.8m、吹払式 L=68.6m) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	665.4m	665.4m	665.4m	665.4m	665.4m
		年度達成率	97%	95%	97%	98%	97%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	16%	34%	54%	75%	97%
	備考欄						

事業名	町道防雪柵設置事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	防雪柵設置撤去延長	
【抱える課題やニーズは】	視界不良や吹溜りによる交通障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	吹雪時における視程確保並びに吹溜りの解消	① 防雪柵設置撤去延長/防雪柵設置撤去延長	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の安全な通行の確保		目標値	665.4 m
			実績値	665.4 m
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①設置は民間業者による工事の実施	防雪柵の実施は、入札により民間業者に工事発注し実施した。		
	②撤去費は直営で実施	防雪柵の撤去は、直営により機械をリースし、派遣運転手、添乗員及び民間業者の作業員により実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	吹雪時における視界不良や吹溜りが発生しやすい路線に防雪柵を設置し、安全な通行の確保と除雪作業の効率化のためには、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		当該事業を実施したことにより、安全な通行の確保と除雪作業の効率化が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		防雪柵の設置により吹溜りの解消が図られ、除雪費用が軽減されたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		吹雪時における視界不良や吹溜りが発生しやすい路線に防雪柵を設置し、安全な通行の確保できたことは、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通り防雪柵を設置し、安全な通行が図れたことは、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
除雪路線の安全な通行確保と除雪作業の効率化のために、吹溜りが発生しやすい路線における防雪柵の設置は必要であり、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010080

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町道路面清掃事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	路面清掃延長		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
事業目標	187,020m		関係例規・法令名			
住民参加	無		関係個別計画名			
住民協働						

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	○町道路面清掃 L=187,020m	町道路面清掃 L=37,420m	町道路面清掃 L=37,700m	町道路面清掃 L=37,800m	町道路面清掃 L=37,900m	町道路面清掃 L=36,200m	
	事業費(千円)	11,240	2,230	2,350	2,480	2,380	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
実績事業費	11,240	1,800	2,230	2,350	2,480	2,380	
実 績 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
実績事業費	10,599	1,733	2,106	2,160	2,300	2,300	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 町道路面清掃L=37,335m	(実施内容等) 町道路面清掃 L=37,335m	(実施内容等) 町道路面清掃 L=37,335m	(実施内容等) 町道路面清掃 L=35,500m	
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	37,335m	37,335m	37,335m	35,500m	35,070m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	96%	94%	92%	93%	97%
		全体達成率	15%	34%	53%	74%	94%
	備考欄						

事業名	町道路面清掃事業	評価者	管理職	職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者	職氏名	土木管理係	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町道路面清掃延長		
【抱える課題やニーズは】	町道の環境悪化と通行障害		指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町道の安全な通行の確保		① 町道路面清掃延長/町道路面清掃延長	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	町道の環境保全と安全な通行の確保			目標値	35,070 m
			実績値	35,070 m	
			達成度	100.0 %	
		②	目標年度	平成29年度	
			目標値	〇〇	
			実績値	〇〇	
			達成度	#DIV/0! %	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間委託により実施	入札により民間業者に委託し、路面を清掃する作業を実施した。			

■事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道の環境保全と安全な通行を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、町道の環境保全と安全な通行が確保された。
有効/概ね有効 /課題あり	<input type="checkbox"/>	達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	一部の地域について直営で実施したことにより、事業費を抑制できたことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

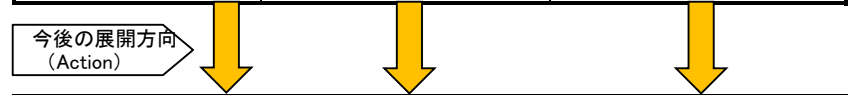
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町道の環境保全と安全な通行が確保されたことは、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。
公平/概ね公平 /公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
道路環境を保全し、交通の安全を確保するためには、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		



継続/現状維持		
道路環境を保全し、交通の安全を確保するためには、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010090

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。 (前期総合計画から拡充～雇用人数1人増による事業費増)
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道等除草作業他環境保全事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	除草道路延長		#N/A	
事業目標	184.5km	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	○道路等除草作業 ・雇用人数～3人(平成27年度～4人) ・雇用期間～5月～10月(6カ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6カ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6カ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6カ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6カ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6カ月間)	
	事業費(千円)	30,400	4,500	5,750	6,350	6,700	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	30,400	4,500	5,750	6,350	6,700	7,100	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	30,038	4,410	5,616	6,210	6,890	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	30,038	4,410	5,616	6,210	6,890	6,912	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・6月～10月(5カ月間) ・除草作業道路延長L=31.4km	(実施内容等) 道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・6月～10月(5カ月間) ・除草作業道路延長L=36.9km	(実施内容等) 道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6カ月間) ・除草作業道路延長L=36.9km	(実施内容等) 道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・6月～10月(5カ月間) ・除草作業道路延長L=36.9km	(実施内容等) 道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・6月～10月(5カ月間) ・除草作業道路延長L=36.9km	
	※事務事業評価結果	B-継続/内容の見直し・変更	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	36.9km	36.9km	36.9km	36.9km	36.9km
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	98%	98%	98%	103%	97%
	全体達成率	15%	33%	53%	76%	99%	
	備考欄						

事業名	町道等除草作業他環境保全事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	除草道路延長	
【抱える課題やニーズは】	町道等の環境と雑草による視程障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町道等に生育する雑草の除去と道路環境の保全	① 除草道路延長/除草道路延長	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	雑草のない道路環境		目標値	36.9 m
			実績値	36.9 m
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間委託により実施	入札により民間業者に委託し、町道等に生育している雑草の除草、草刈作業を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道等に生育している雑草による視程障害の回避や道路の環境保全是、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		当該事業を実施したことにより、雑草による視程障害のない道路環境が保全される。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		民間業者に委託したことにより、事業費を抑制できたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		雑草による視程障害の回避や道路環境が保全されたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
雑草による視程障害を回避するためには、今後も計画どおり事業を進めることが適応であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
雑草による視程障害の回避や道路環境保全のためには、継続、現状維持が妥当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010120

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 全体事業費【平成25年度～平成34年度】224,000千円 修繕橋梁数～24橋、橋梁点検(平成28年度、平成29年度)～54橋
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町道橋修繕事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	橋梁修繕数		関係課	#N/A		
事業目標	4橋		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	橋梁詳細設計～6橋 橋梁修繕工事～4橋 橋梁点検 ～54橋		◆橋梁詳細設計 当沸橋、山田橋 ◆橋梁修繕工事 当沸橋	◆橋梁詳細設計 当沸橋、山田橋、千田橋 ◆橋梁修繕工事 山田橋	◆橋梁詳細設計 元稲府橋 ◆橋梁修繕工事 当沸橋、山田橋、千田橋 【単独】元稲府橋 ◆橋梁点検(近接目視) 点検橋梁数～25橋	◆橋梁詳細設計 豊年橋、高野橋 ◆橋梁修繕工事 元稲府橋 ◆橋梁点検(近接目視) 点検橋梁数～29橋	
	事業費(千円)	102,344	0	5,670	16,730	57,000	22,944
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	62,196		3,969	11,711	31,500	15,016
	道支出金	0					
	地方債	35,100		1,700	5,000	25,500	2,900
	その他	0					
一般財源	5,048		1	19	0	5,028	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	95,223	0	5,454	16,729	52,974	20,066
	財源内訳						
	国庫支出金	57,424		3,818	11,710	28,764	13,132
	道支出金	0					
	地方債	27,300		1,600	5,000	18,800	1,900
その他	0						
一般財源	10,499		36	19	5,410	5,034	
関 連 事 項	特定財源の名称 ・社会資本整備総合交付金 (補助率7/10) H29年度(補助率6.545/10) ・地方債(過疎)100%	【評価・実績】	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) 設計橋梁:当沸橋、山田橋 修繕橋梁:当沸橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 設計橋梁:当沸橋、山田橋、 千田橋 修繕橋梁:山田橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 橋梁詳細設計:元稲府橋 橋梁修繕工事:千田橋、当沸橋 山田橋 元稲府橋【単独】 橋梁点検(近接目視);25橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 橋梁詳細設計:豊年橋、高野橋 橋梁修繕工事:元稲府橋 橋梁点検(近接目視);29橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1橋	1橋	4橋	1橋	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	96%	100%	93%	87%
		全体達成率	0%	5%	22%	73%	93%
	備考欄						

事業名	町道橋修繕事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、橋梁	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	修繕橋梁数		
【抱える課題やニーズは】	橋梁の損傷による通行障害		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	橋梁修繕による損傷箇所の健全化		① 修繕橋梁数/修繕橋梁数	目標年度	平成29年度
				目標値	1橋
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	実績値	1橋	
			達成度	100.0%	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による調査設計・橋梁点検、工事の実施	入札により民間業者に業務を発注し、調査設計・橋梁点検の実施と、工事を発注し、橋梁修繕を実施した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全な通行を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		橋梁の修繕を行うことで、適切な維持管理ができ、安全な通行の確保が図られる。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		コスト削減を図るために策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき橋梁の修繕を実施できたこと、また、橋梁修繕を実施したことで、安全な通行が確保されたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		橋梁修繕を実施したことにより、道路の安全な通行の確保が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
橋梁の修繕を行い、安全な通行を確保することは必要であることから、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁修繕を完了させるまでは、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010130

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 (前期総合計画から拡充による事業費増) 【平成30年度】全体30,000千円 ・魚田14号線 L=120m(沢木側W=1.5m) 4,000千円 魚田1号線～魚田14号交差点 ・中央線 L=880m(両側W=1.5m) 26,000千円
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道歩道整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	整備延長		#N/A	
事業目標	3,530m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	○町道歩道整備 【平成25年度】 公園通り L=670m(両側W=2.0m) 【平成26年度】 公園通り L=230m(両側W=2.0m) 臨港線 L=400m(両側W=3.0m) 【平成27年度】 魚田14号線 L=490m(幌内側W=1.5m) 【平成29年度】 魚田14号線 L=440m(沢木側W=1.5m)	公園通り L=670m(両側W=2.0m)	公園通り L=230m(両側W=2.0m) 臨港線 L=400m(両側W=3.0m)	魚田14号線 L=490m(幌内側W=1.5m)		魚田14号線 L=440m(沢木側W=1.5m) 国道～魚田1号線	
	事業費(千円)	72,000	16,000	30,000	13,000	0	13,000
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	72,000	16,000	30,000	13,000	0	13,000
	その他	0					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	70,237	15,330	29,376	12,787	0	12,744
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	69,800	15,300	29,100	12,700		12,700
その他	0						
一般財源	437	30	276	87		44	
関 連 事 項	特定財源の名称 ・地方債(過疎)100%	【評価・実績】	(実施内容等) 公園通り L=680m(両側W=2.0m)	(実施内容等) 公園通り L=230m(両側W=2.0m) 臨港線 L=407m(両側W=3.0m)	(実施内容等) 魚田14号線 L=490m(幌内側W=1.5m)	(実施内容等)	(実施内容等) 魚田14号線 L=440m(沢木側W=1.5m) 国道～魚田1号線
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	680m	637m	490m		440m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		96%	98%	98%	#DIV/0!
	全体達成率		21%	62%	80%	80%	98%
	備考欄						

事業名	町道歩道整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	歩道整備延長								
【抱える課題やニーズは】	歩道損傷による通行障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	歩道整備による凸凹、ひび割れの解消	① 歩道整備延長/歩道整備延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>440 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>440 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	440 m	実績値	440 m	達成度	100.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	440 m										
実績値	440 m										
達成度	100.0 %										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0! %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	入札による民間業者に工事を発注し、歩道整備を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全な通行を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保されたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	安全な通行の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町道の歩道整備を行い、安全な通行の確保を図るため、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
損傷が著しく歩行に支障をきたしている歩道の解消を行い、安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010210

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成30年度実施予定 道路改修L=180m
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	幌内登校線道路改修事業	見直し年度		
事業期間	平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	地域住民との協議、改修延長		#N/A	
事業目標	地域住民との協議、180m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	・地域住民との協議					・地域住民との協議
	事業費(千円)	0	0	0	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称 ・地方債(辺地)100%	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値				地域住民との協議
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	備考欄					

事業名	幌内登校線道路改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	地域住民との協議	
【抱える課題やニーズは】	凸凹による通行障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路改修による凸凹の解消	① 地域住民との協議/地域住民との協議	目標年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の快適で安全な通行の確保		目標値	平成29年度
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	※事業先送りにより、未実施となる	②	実績値	1回
			達成度	0回
			達成度	0.0%
			目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

課題あり	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の快適で安全な通行を確保することは、町が担う必要があるが、幌内小学校閉校後、当該道路の改修ニーズ・優先度は低い状況となっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	事業先送りにより、未実施となる。
	<input type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

課題あり	判断の理由	※未実施
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	未実施であるが、町道自体は公共インフラである。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C		
事業先送りとなり、当初の計画を達成できていないが、道路改修は必要であることから、今後、事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

休止		
事業開始の時期については、総合計画をもとに検討する。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010230

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 【平成30年度】 道路整備 L=80m、W=7.0m、片歩道W=1.5m
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	魚田19号線道路整備事業		見直し年度			
事業期間	平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	整備延長		関係課	#N/A		
事業目標	140m		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

		全 体 計 画 事 業 内 容	平成 25 年度 事 業 内 容	平成 26 年度 事 業 内 容	平成 27 年度 事 業 内 容	平成 28 年度 事 業 内 容	平成 29 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	○道路整備 L=140m、W=7.0m、片歩道W=1.5m ○実測調査設計 L=220m						道路整備 L=140m、W=7.0m、片歩道W=1.5m 実測調査設計 L=220m
	事業費(千円)	36,500	0	0	0	0	36,500
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	36,500				0	36,500
	その他	0					
実 績 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	35,100					35,100
	その他	0					
関 連 事 項	特定財源の名称 ・地方債(過疎)100%		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等) 道路整備 L=180m、W=4.0m 歩道(片側)W=1.5m 実測調査設計 L=220m
	【評価・実績】		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値					180m
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	96%
	第6期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	0%	0%	0%	0%	96%
		備考欄					

事業名	魚田19号線道路整備事業	評価者	管理職	職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者	職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	整備延長	
【抱える課題やニーズは】	魚田地区における道路環境の整備	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域住民が利用する道路の利便性の向上	① 整備延長/整備延長	目標年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の快適で安全な通行の確保		目標値	平成29年度
			実績値	180 m
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による実測調査設計及び工事の実施	入札により民間業者に発注し、実測調査設計並びに工事を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の快適で安全な通行を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり		<input type="checkbox"/> 全部	
		<input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、地域の交通の利便性の向上が図られたことは、有効であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり		<input type="checkbox"/> ほぼ達成
		<input type="checkbox"/> 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	当該事業を実施したことにより、地域の交通の利便性が図られたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり		<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減
		<input type="checkbox"/> その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	交通の利便性の確保が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない		<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る
		<input checked="" type="checkbox"/> その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
地域住民の交通の利便性を確保するためには、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010250

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	錦町海岸線道路整備事業		見直し年度			
事業期間	平成26年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	整備延長			#N/A		
事業目標	140m		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	○道路整備L=140m,W=5.0m,歩道W=1.5m		実測調査設計L=140m			道路整備 全体延長L=140m
	○実測調査設計L=140m		用地確定調査L=140m			・前浜線～ボンオコツナイ川 L=60m,W=5.0m
	○用地確定調査L=140m					・オコツナイ川～ボンオコツナイ川 L=80m,W=5.0m,歩道W=1.5m
計 画 事 業 費	事業費(千円)	37,000	0	4,000	0	33,000
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	33,000				33,000
その他	0					
一般財源	4,000		4,000			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	35,197	0	3,877	0	31,320
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	30,700				30,700
その他	0					
一般財源	4,497		3,877			
関 連 事 項	特定財源の名称 過疎債(ハード)100%		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値				136.52m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	97%	#DIV/0!	95%
	全体達成率	0%	10%	10%	10%	
	事業進捗状況					

事業名	錦町海岸線道路整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	道路整備延長	
【抱える課題やニーズは】	降雨時の水処理、既設舗装の凸凹の解消。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	快適な通行と道路環境の向上。	① 道路整備延長/道路整備延長	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の快適な道路環境の確保。		目標値	136.52 m
			実績値	136.52 m
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による設計及び工事の実施	入札により民間業者に設計及び工事を発注し、道路整備を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者が通行する道路環境を良好にすることは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		当該事業を実施したことにより、快適な道路環境が確保された。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		当該事業を実施することで、快適な道路環境が確保されたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		道路環境の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
事業が目標どおり達成された。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
平成29年度事業終了。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010331

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道舗装事業	見直し年度		
事業期間	平成26年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	舗装延長		#N/A	
事業目標	1,400m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	町道7路線 【平成27年度】 沢木17号線 L=100m、W=4.0m 栄丘1号線 L=260m、W=4.0m モサラマン線 L=150m、W=4.0m 【平成28年度】 沢木17号線 L=250m、W=4.0m 栄丘1号線 L=300m、W=4.0m 【平成29年度】 沢木12号線 L=200m、W=4.0m 沢木6号線 L=200m、W=4.0m		沢木2号線 L=500m、W=4.0m 栄丘4号線 L=100m、W=4.0m	沢木17号線 L=100m、W=4.0m 栄丘1号線 L=260m、W=4.0m モサラマン線 L=150m、W=4.0m 7,400千円 ① 沢木17号線 L=250m、W=4.0m ② 栄丘1号線 L=240m、W=4.0m ※補正繰越(H28実施) 5,000千円	沢木12号線 L=200m、W=4.0m 沢木6号線 L=200m、W=4.0m ※補正繰越(H29実施) 7,200千円 沢木17号線 L=250m、W=4.0m 栄丘1号線 L=300m、W=4.0m ※補正繰越(H27→H28実施) 5,000千円	沢木12号線 L=200m、W=4.0m 沢木6号線 L=200m、W=4.0m ※補正繰越(H28→H29実施) 7,200千円	
	事業費(千円)	25,600	0	6,000	12,400	7,200	0
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	25,600	6,000	12,400	7,200	0		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	24,916	0	5,832	7,204	4,806	7,074
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	24,916	5,832	7,204	4,806	7,074		
特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-終了	
前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値		680m	630m	550m	400m	
第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	97%	58%	67%	#DIV/0!	
	全体達成率	0%	23%	51%	70%	97%	
	備考欄						

事業名	町道舗装事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	舗装延長								
【抱える課題やニーズは】	凸凹による通行障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	舗装工事による凸凹の解消	① 舗装延長/舗装延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>400 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>400 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	400 m	実績値	400 m	達成度	100.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	400 m										
実績値	400 m										
達成度	100.0 %										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0! %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に発注し、工事を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全な通行を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保されたことは、有効であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保されたことは、効果的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	道路環境の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
事業が目標どおり達成された。		
今後の展開方向 (Action)	↓	↓
終了		
平成29年度事業終了。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010332

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町道排水改修事業		見直し年度			
事業期間	平成26年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	排水改修箇所		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
事業目標	8箇所		関係例規・法令名			
住民参加	無		関係個別計画名			

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	排水改修 4箇所 【平成26年度】 市街地(港町)、開生3号線 【平成27年度】 市街地(魚田)、栄丘幹線 【平成28年度】 新日の出地区、沢木地区 【平成29年度】 音稲府乙開拓線、栄丘線		・市街地(港町) ・開生3号線	・市街地(魚田) ・栄丘幹線	・音稲府乙開拓線 排水改修L=18m ・栄丘線 排水改修L=28m ※補正繰越(H29実施) 8,000千円	・音稲府乙開拓線 排水改修L=18m ・栄丘線 排水改修L=28m ※補正繰越(H28→H29実施) 8,000千円
	事業費(千円)	31,800	0	11,000	12,800	8,000
	財源内訳	国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0 一般財源 31,800	0	11,000	12,800	8,000
	実績事業費	事業費(千円) 34,096 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0 一般財源 34,096	0	10,800	9,720	5,692
	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等) ・市街地(港町) ・開生3号線 ※事務事業評価結果	(実施内容等) ・市街地(魚田) ・栄丘幹線 ・東浜線(9月補正) ・※①②は補正繰越(H28実施) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ①新日の出地区排水改修 排水改修L=43m ②沢木地区排水改修 排水改修L=41m ※補正繰越(H27→H28実施) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・音稲府乙開拓線 排水改修L=36m ・栄丘線 排水改修L=28m ※事務事業評価結果 A-終了
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	2箇所	3箇所	2箇所	2箇所
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	98%	76%	71%
		全体達成率	0%	34%	65%	82%
		備考欄				#DIV/0!
						107%

事業名	町道排水改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	排水	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	排水改修箇所	
【抱える課題やニーズは】	道路から採草地等への雨水の流入	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路敷地内における雨水の処理	① 排水改修箇所/排水改修箇所	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	採草地等への雨水の流入防止		目標値	2箇所
			実績値	2箇所
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、排水改修を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道排水の維持管理は、道路管理者となることから、排水改修は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、排水機能が確保されたことで、採草地等への雨水流入を防止することができた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	当該事業を実施したことにより、採草地等への雨水流入を防止することができたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	排水機能が確保されたことによる採草地等への被害を未然に防止できことは、概ね公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
事業が目標どおり達成された。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
平成29年度事業終了。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010334

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 【平成30年度】 舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=400m、W=5.5m
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	道路ストック総点検事業	見直し年度		
事業期間	平成26年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	各施設点検項目数・舗装補修延長		#N/A	
事業目標	6項目・470m	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
全体計画		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	【平成26年度】 道路ストック総点検 舗装101.3km、照明108基、法面15箇所、 防雪柵506基、大型視線誘導標62基、 大型標識10基		・舗装 101.3km ・照明 128基 ・法面 1,200㎡ ・防雪柵 2,000m ・大型視線誘導標 121基 ・大型標識 10基	・舗装補修工法検討 3路線 ・法面 24箇所	・舗装補修工事(オーバーレイ工) 雄武高校線 L=120m、W=7.0m	・舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=350m、W=5.5m
	【平成27年度】 ・舗装補修工法検討:3路線、法面点検:24箇所					
	【平成28年度】 舗装補修工事(オーバーレイ工) 雄武高校線 L=120m、W=7.0m					
	【平成29年度】 舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=350m、W=5.5m					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	51,900	0	32,500	3,400	4,000
	財源内訳					
	国庫支出金	35,784		22,750	2,380	2,800
	道支出金	0				
	地方債	5,300				1,200
その他	0					
一般財源	10,816		9,750	1,020		
実績事業費	事業費(千円)	49,842	0	31,158	3,132	3,888
財源内訳						
国庫支出金	34,358		21,811	2,192	2,721	7,634
道支出金	0					
地方債	4,000					4,000
その他	0					
一般財源	11,484		9,347	940	1,167	30
【 評 価 ・ 実 績 】	特定財源の名称 社会資本整備総合交付金 (補助率7/10) H29年度(補助率6.545/10) ・地方債(過疎)100%	(実施内容等)	(実施内容等) 【繰越明許分;H25補正】 ・舗装101.3km ・照明111基 ・法面15箇所 ・防雪柵506基 ・大型視線誘導標 65基 ・大型標識 10基	(実施内容等) ・舗装補修工法検討 3路線 ・法面 24箇所	(実施内容等) ・舗装補修工事(オーバーレイ工) 雄武高校線 L=120m、W=7.0m	(実施内容等) ・舗装補修工事(路上路盤再生工) 曙5号線 L=205m、W=4.0m
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	6項目	舗装補修工法検討3路線、法面24箇所	舗装補修延長120m	舗装補修延長350m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	96%	92%	97%
	全体達成率	0%	60%	66%	74%	96%
	備考欄					

事業名	道路ストック総点検事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	舗装補修延長								
【抱える課題やニーズは】	道路施設の老朽化に伴う道路利用者への被害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	舗装補修によるひび割れ、わだち掘れの解消	① 舗装補修延長/舗装補修延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>205 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>205 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	205 m	実績値	205 m	達成度	100.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	205 m										
実績値	205 m										
達成度	100.0 %										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0! %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間委託による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、舗装補修を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保されたことは、有効であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保されたことは、効果的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	道路環境の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
道路利用者の安全な通行を確保するためには、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010340

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町内河川小工事事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	河川の応急補修		#N/A	
事業目標	適切な補修	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	○町内河川の応急的な補修等工事	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	
	事業費(千円)	10,600	1,800	2,000	2,100	2,300	2,400
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	10,600	1,800	2,000	2,100	2,300	2,400	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	13,744	1,764	1,999	2,035	5,773	2,173
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	13,744	1,764	1,999	2,035	5,773	2,173	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (オオムシベツ川、上沢木無名川、 ホソコツナイ川)	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (元稲府川、御西川)	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (元沢木川、大川、元稲府川)	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (元沢木川、上雄武無名川、 元稲府川)	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (元稲府川、元沢木川、 音稲府川)	
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 適切な補修	適切な補修	適切な補修	適切な補修	適切な補修	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 98%	100%	97%	251%	91%	
	全体達成率 17%	36%	55%	109%	130%		
	備考欄						

事業名	町内河川小工事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	補修河川数
【抱える課題やニーズは】	河川未改修による災害の拡大	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町内河川の応急補修等による現況復元	① 補修河川数/補修河川数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	災害からの未然防止		目標値 3 河川
			実績値 3 河川
			達成度 100.0 %
		②	目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間による工事に実施	入札により民間業者に工事を発注し、元稲府川について護岸、元沢木川については土砂除去、音稲府川については、侵食された河岸の復旧を実施した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町内河川の応急的な工事の実施や、事前に河川整備を実施することで、決壊等の被害を未然に防ぐことは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり		<input type="checkbox"/> 全部	
		<input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	応急的な工事の実施や、事前に河川整備を実施することで、決壊等の被害を未然に防ぐことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり		<input type="checkbox"/> ほぼ達成
		<input type="checkbox"/> 下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	決壊等の被害を未然に防止したことは、事業費の抑制となり、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり		<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減
		<input type="checkbox"/> その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町内河川の応急的な工事により、災害を未然に防止できたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない		<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る
		<input checked="" type="checkbox"/> その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
災害を未然に防止するため、応急的な補修等の工事ができることから、今後も必要な事業であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
災害を未然に防止するため、応急的な補修等の工事に対応することは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010360

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	A		
単位施策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	元沢木海岸線道路整備事業		見直し年度			
事業期間	平成28年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	整備延長			#N/A		
事業目標	350m		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計画 内容	○避難路整備 L=350m、W=5.5m				実測調査設計 L=350m	道路整備 L=350m、W=5.5m
	○実測調査設計 L=350m				用地確定調査 L=350m	用地買収 A=2,000㎡
	○用地確定調査 L=350m					
	○用地買収 A=2,000㎡					
計画 事業 費	事業費(千円)	54,500	0	0	0	7,000
	財源内訳					
	国庫支出金	31,088				
	道支出金	0				
	地方債	16,400				
	その他	0				
実績 事業 費	事業費(千円)	6,750	0	0	0	6,750
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関連 事項	特定財源の名称 ・社会資本整備総合交付金 H29年度(補助率6.545/10) ・地方債(過疎)100%	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
						※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
						※未実施
						※事務事業評価結果 D-休止
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値			350m	350m
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	96%
		全体達成率	0%	0%	0%	12%
		備考欄				

事業名	元沢木海岸線道路整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	道路整備、用地買収	
【抱える課題やニーズは】	災害時における避難路の確保	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	災害時における迅速な避難が行える道路の整備	① 道路整備/道路整備	目標年度	平成29年度
			目標値	350 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	災害時における迅速な避難が行える	② 用地買収/用地買収	実績値	0 m
			達成度	0.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	※用地買収が進まなかったことにより、未実施となる。		目標年度	平成29年度
			目標値	2,000 m ²
			実績値	0 m ²
			達成度	0.0 %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	災害時において迅速に避難ができるための道路整備は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	用地買収が進まず、目標値を下回る。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

課題あり	判断の理由	※未実施
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input type="checkbox"/>	人員削減
課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	未実施であるが、町道自体は公共インフラである。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	D	
	道路整備、用地買収の目標が達成されておらず、事業効果が表れていない。現在、用地買収に向け事務を執り進めているが、事業の着手時期が未定であることから、事業を一旦休止する。	

今後の展開方向
(Action)

	休止	
	事業を一旦休止するが、災害時の避難路として必要不可欠な道路であることから、事業の着手時期が見えた段階で事業を再開する。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010361

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	オタコムシュベツ川改修事業	見直し年度		
事業期間	平成26年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	河川改修面積		#N/A	
事業目標	A=514m,L=500m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	護岸工 A=514㎡		護岸工 A=120㎡	護岸工 A=128㎡	護岸工 A=116㎡	護岸工 A=150㎡
	土砂除去 L=500m					土砂除去 L=500m
計 画 事 業 費	事業費(千円)	33,400	0	6,000	6,700	7,300
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	33,400	0	6,000	6,700	7,300	13,400
実 績 事 業 費	事業費(千円)	32,616	0	5,832	6,480	7,128
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	32,616	0	5,832	6,480	7,128	13,176
特 定 財 源 の 名 称 (H29～基金対応)	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等) 護岸工 A=120㎡	(実施内容等) 護岸工 A=128㎡	(実施内容等) 護岸工 A=116㎡	(実施内容等) 護岸工 A=150㎡ 土砂除去 L=500m
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-終了
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	120㎡	128㎡	116㎡	150㎡、500m
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	97%	97%	98%
		全体達成率	0%	17%	37%	58%
	備考欄					

事業名	オタクムシュベツ川改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	①護岸面積、②土砂除去	
【抱える課題やニーズは】	豪雨、融雪出水に伴う河岸決壊による背後地への被害並びに草地への浸水	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	護岸工による河岸の復旧、土砂除去による流下能力の確保	① 護岸面積/護岸面積	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	背後地並びに草地への被害拡大の防止		目標値	150 m ²
			実績値	150 m ²
			達成度	100.0 %
		② 土砂除去/土砂除去	目標年度	平成29年度
			目標値	500 m
			実績値	500 m
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、河川改修を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町管理となる河川の河岸決壊並びに草地への浸水の被害防止は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	河川改修を実施したことにより、背後地並びに草地への被害を未然に防ぐことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	背後地並びに草地への被害を未然に防止できたことは、事業費の抑制となり、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	背後地並びに草地への被害を未然に防止できたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
事業が目標どおり達成された。		
今後の展開方向 (Action)	↓	↓
終了		
平成29年度事業終了。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 休止 廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010370

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	20 防犯・交通安全の推進	事業優先度	B	
単位施策	2 交通安全対策の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	道路区画線塗装事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	3 税財管理課 #N/A	
事業指標	区画線延長	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
事業目標	75,000m	関係例規・法令名		
住民参加	無	関係個別計画名		
住民協働				

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	○町道の舗装道路で、見えにくくなった中心線や外側線を塗装する。 ・塗装総延長 L=75,000m (住民活動費との予算合算発注事業)	塗装総延長 L=15,000 m	塗装総延長 L=15,000 m	塗装総延長 L=15,000 m	塗装総延長 L=15,000 m	塗装総延長 L=15,000 m
	事業費(千円)	3,560	600	680	720	760
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	3,560	600	680	720	760	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,832	520	593	537	429
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	2,832	520	593	537	429	
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 塗装総延長 L=14,963m	(実施内容等) 塗装総延長 L=13,861 m	(実施内容等) 塗装総延長 L=12,172 m	(実施内容等) 塗装総延長 L=13,489 m	(実施内容等) 塗装総延長 L=14,355m
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 14,963m	13,861m	12,172m	13,489m	15,000m
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 87%	87%	75%	99%	54%
	全体達成率 15%	31%	46%	68%	80%	
	備考欄					

事業名	道路区画線塗装事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	区画線延長	
【抱える課題やニーズは】	舗装道路の安全な通行が確保できない	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路利用者が視認しやすい区画線の確保	① 区画線塗装/区画線塗装	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の通行の安全の確保		目標値	14,355 m
			実績値	14,355 m
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間委託により実施	住民生活課予算(住民活動費)と合算し、入札により委託発注し実施した。(H29委託料:1,566千円)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	舗装道路の薄くなった区画線を塗装することは、道路利用者の通行の安全を図る上で、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、薄くなった区画線を視認性を確保し、交通の安全が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	舗装道路の薄くなった区画線を調査し、必要路線における適切な塗装ができたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	舗装道路の薄くなった区画線を塗装することで、道路利用者の通行の安全が図れたことは、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
区画線塗装は、舗装道路の交通安全確保上、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
舗装道路の区画線がはっきり視認できることは、交通の安全確保のため必要不可欠であり、継続、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10020010

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ◇公園施設等維持管理 10施設／年 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他4施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託
基本施策	18 住環境の整備	事業優先度	B	
単位施策	3 公園・緑地の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	公園維持管理事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	公園等施設数		#N/A	
事業目標	10施設／年	ハード／ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加 住民協働	無	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	◇公園施設等維持管理 10施設／年 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他4施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託	◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託	◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託	◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託	◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託	◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他4施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託	
	事業費(千円)	36,240	5,900	7,100	7,400	7,500	8,340
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	36,240	5,900	7,100	7,400	7,500	8,340	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	34,382	5,626	6,723	6,762	7,188	8,083
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	34,382	5,626	6,723	6,762	7,188	8,083	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) ◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	(実施内容等) ◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	(実施内容等) ◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	(実施内容等) ◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他3施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	(実施内容等) ◇公園施設等維持管理 10施設 ・公園等施設管理委託 ・旭日公園他4施設管理委託 ・旭日公園管理棟他管理委託 ・宮の森公園休憩施設管理委託 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	10施設	10施設	10施設	10施設	10施設
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		95%	95%	91%	96%
	全体達成率		16%	34%	53%	73%	95%
	備考欄						

事業名	公園維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	課長	田原慎也
		評価者 作成者 職氏名	課長補佐	永井栄次

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	公園等の利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	公園環境の悪化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	公園等の利用者が安全快適に利用できる公園施設を目指す。	① 公園等施設数/維持管理公園数の実績	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	公園等の利用者が楽しく安心して快適に利用できる公園施設		目標値 10施設
			達成度 100.0%
		②	目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間事業者による委託の実施	民間事業者の入札・見積合せにより、公園等の草刈、清掃を委託した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	公園等の利用者が安全快適に利用してもらうためには、草刈、清掃の実施は欠くことのできないものであり、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、公園等利用者の安全快適な環境の確保が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	他所管施設との一括発注により、時間短縮・作業軽減したことは効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	誰もが安全快適に利用できるよう定期的な維持管理を行ったことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
公園等利用者の憩いの場として安全で楽しく快適に利用してもらうため、また、豊かな緑地が存在する公園等を保全するためにも必要不可欠であり、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
公園等の利用者が安全で楽しく快適に利用してもらうため、また、公園等の緑地を保全するためにも現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10020020

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ・各施設遊具修繕: 70基 ・沢木交通公園土留柵修繕 ・各施設遊具等点検委託 ・沢木交通公園遊具整備
基本施策	18 住環境の整備	事業優先度	B	
単位施策	3 公園・緑地の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	公園等施設遊具修繕事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	修繕遊具数		#N/A	
事業目標	23基	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設遊具修繕～23基 ・沢木交通公園土留柵修繕 ・各施設遊具等点検委託 ・沢木交通公園遊具整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設遊具修繕 ・沢木交通公園土留柵修繕 L=30m H=1.5m L型擁壁 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設遊具修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設遊具修繕 ・各施設遊具等点検委託 ・沢木交通公園遊具整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設遊具修繕 ・各施設遊具点検委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設遊具修繕 ・各施設遊具点検委託 	
	事業費(千円)	16,100	3,600	700	8,900	1,300	1,600
計 画 事 業 費	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	16,100	3,600	700	8,900	1,300	1,600
実 績 事 業 費	事業費(千円)	15,347	3,532	626	8,608	1,112	1,469
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	15,347	3,532	626	8,608	1,112	1,469	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) ・各施設遊具修繕 6基 ・沢木交通公園土留柵修繕 L=30m H=1.5m L型擁壁 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・各施設遊具修繕 7基 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・各施設遊具修繕 5基 ・各施設遊具等点検委託 266基 ・沢木交通公園遊具整備 複合遊具1基 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・各施設遊具修繕 4基 ・各施設遊具等点検委託 82基 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・各施設遊具修繕 2基 ・各施設遊具等点検委託 65基 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	5基	5基	5基	5基	3基
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	98%	89%	97%	86%	92%
	全体達成率	22%	26%	79%	86%	95%	
	備考欄						

事業名	公園等施設遊具修繕事業	評価者	管理職	職氏名	課長	田原慎也
		評価者	作成者	職氏名	課長補佐	永井栄次

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	公園等の利用者、施設遊具	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	遊具利用者の事故	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	公園等の利用者が安全に利用できる公園施設を目指す。	① 修繕遊具数/修繕遊具数の実績	目標年度	平成29年度
			目標値	3基
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	公園等の施設遊具への安全対策	②	実績値	2基
			達成度	66.7%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事・点検委託の実施	(社)日本公園施設業協会認定業者の見積合わせにより、工事・点検委託を発注し公園遊具の修繕・点検を実施した。	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	公園等の利用者に安心して利用してもらうためには、遊具の修繕・点検等は欠くことのできないものであり、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、公園等利用者の安全な利用が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	遊具施設の修繕・点検等、維持管理を行っていくことにより、安全性を確保し、かつ施設の寿命を図っていくことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	誰もが安全に利用できるよう遊具の修繕・点検を行ったことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
公園等利用者の憩いの場として安全で楽しく利用してもらうためには、遊具の修繕・点検は必要不可欠であり、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
公園等の利用者が安全で楽しく利用してもらうためには、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10020030

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ・都市公園長寿命化計画策定 ・稲荷公園トイレ設置工事 ・都市公園(宮の森公園、旭日公園、稲荷公園、中央公園)整備工事
基本施策	18 住環境の整備	事業優先度	B	
単位施策	3 公園・緑地の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	都市公園整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	都市公園数		#N/A	
事業目標	4箇所	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	・都市公園(宮の森公園、旭日公園、稲荷公園、中央公園)整備工事	・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 稲荷公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事	・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事	・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 稲荷公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事	・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事 稲荷公園施設修繕工事	・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 稲荷公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事 中央公園施設修繕工事	
	事業費(千円)	93,430	32,533	32,126	7,677	11,897	
計 画 事 業 費	財源内訳	国庫支出金	32,863	15,000	11,163	2,500	
	道支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	60,567	17,533	20,963	5,177	9,397	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	89,731	31,723	30,681	7,074	11,428	
	財源内訳	国庫支出金	31,238	14,595	10,298	2,295	
	道支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
一般財源	58,493	17,128	20,383	4,779	8,998		
関 連 事 項	特定財源の名称 ・社会資本整備総合 交付金1/2 ・起債 基幹事業 一般公共事業債90% 効果促進事業 一般単独事業債75%	【評価・実績】	(実施内容等) ・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 稲荷公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 稲荷公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・都市公園整備事業 宮の森公園施設修繕工事 稲荷公園施設修繕工事 旭日公園施設修繕工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前記計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	都市公園数3箇所	都市公園数2箇所	都市公園数3箇所	都市公園数3箇所	都市公園数4箇所
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	98%	96%	92%	96%	96%
		全体達成率	34%	67%	74%	87%	96%
		備考欄					

事業名	都市公園整備事業	評価者 管理職 職氏名	課長	田原慎也
		評価者 作成者 職氏名	課長補佐	永井栄次

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	都市公園の利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)									
【抱える課題やニーズは】	都市公園環境(施設の老朽化等)の悪化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	都市公園の利用者が快適で安心して利用できる公園施設を目指す。	① 都市公園数/整備都市公園数の実績	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>4箇所</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>4箇所</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	4箇所	実績値	4箇所	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	4箇所										
実績値	4箇所										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	都市公園の利用者が快適で安心して利用できる公園施設	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	民間業者の入札により、都市公園の施設更新・修繕工事を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	都市公園の利用者が、快適に安心して利用してもらうことと将来の改築に係るコストの低減を図るためには必要不可欠な事業で、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、都市公園利用者の快適な利用環境の確保が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	長寿命化計画に基づき、修繕・更新等を行い、施設の延命を図って行くことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	誰もが利用できる公園施設の整備は、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
都市公園利用者の憩いの場として安全で快適に利用してもらうためには、長寿命化計画に基づき計画通り事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
都市公園の利用者が安全で快適に利用してもらうため、また、計画的に改築するためにも現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10020050

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川・ボンオコツナイ川附帯工事及び附帯委託 ・河川公園施設他整備 ・町有地実測調査設計及び用地確定調査委託 ・本町地区代替地他整備工事
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	A		
単位施策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	雄武町都市対策事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	整備河川数		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
事業目標	2河川		関係例規・法令名			
住民参加 住民協働	有	川づくり検討委員会の開催	関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容		
計 画 内 容	・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川・ボンオコツナイ川附帯工事及び 附帯委託 ・河川公園施設他一式	・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川・ボンオコツナイ川 附帯工事及び附帯委託 (上水道、下水道移設)	・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川附帯工事 (下水道移設・道路整備) ・河川公園施設他整備計画 策定委託	・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・ボンオコツナイ川附帯委託 (下水道移設) ・ボンオコツナイ川河川公園施設 整備(照明ケーブル)	・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川・ボンオコツナイ川 附帯工事、附帯委託 (道路整備、上水道移設設計)	・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川・ボンオコツナイ川 附帯工事、附帯委託 (下水道移設、単価策定)		
	事業費(千円)	245,010	54,310	78,172	15,040	27,210	70,278	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0					
		道支出金	230,138	51,861	71,233	14,540	27,210	65,294
		地方債	0					
その他		0						
実績事業費	事業費(千円)	221,664	46,502	68,592	15,127	25,367	66,076	
財 源 内 訳	国庫支出金	0						
	道支出金	206,464	44,535	61,686	13,574	25,319	61,350	
	地方債	0						
	その他	0						
実績事業費	一般財源	15,200	1,967	6,906	1,553	48	4,726	
関 連 事 項	特定財源の名称 道委託金 オコツナイ川・ボンオコ ナイ川附帯工事委託金	【評価・実績】	(実施内容等) ・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川・ボンオコツナイ川 附帯工事及び附帯委託 (上水道、下水道移設) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川附帯工事 (下水道移設・道路整備) ・河川公園施設他整備計画 策定委託 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・ボンオコツナイ川附帯委託 (下水道移設) ・ボンオコツナイ川河川公園施設 整備(照明ケーブル) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・北海道との協議 ・検討委員会の開催 ・オコツナイ川・ボンオコツナイ川 附帯工事、附帯委託 (道路整備、上水道移設設計) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・北海道との協議 ・ボンオコツナイ川附帯工事、 附帯委託 (下水道移設、単価策定) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	2河川	2河川	2河川	2河川	2河川	
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	86%	88%	101%	93%	94%	
		全体達成率	19%	47%	53%	64%	90%	
		備考欄						

事業名	雄武町都市対策事業	評価者	管理職 職氏名	課長	田原慎也
		評価者	作成者 職氏名	課長補佐	永井栄次

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民・河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	河川の氾濫	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	安全で災害に強い河川整備を目指す。	① 整備河川数/整備河川数の実績	目標年度	平成29年度
			目標値	2河川
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	災害に強い河川整備による地域住民の安全確保	②	実績値	2河川
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	北海道との協議、打合せ	オコツナイ川、ポンオコツナイ川に係る河川整備について、網走建設管理部遠軽出張所と協議、打合せを行った。		
	民間業者による委託・工事の実施	民間業者の入札により、ポンオコツナイ川の支障物件移設設計委託(下水道単価策定)および支障物件移設工事(下水道管移設、マンホール内ポンプ)を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域住民が安全に暮らせる災害に強い河川整備を行うためには、欠くことのできない事業であり町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、河川整備が円滑に進められる環境が整えられた。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	河川本体整備年次と調整を計りながら、支障物件移設設計委託・支障物件移設工事を行うことは、河川本体整備を円滑に進めるうえで効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	地域住民が安全に暮らせる災害に強い河川整備を行うことは、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
地域住民が安全に暮らせる災害に強い河川整備を行うためには、欠くことのない事業であり、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
北海道により実施されている事業であるため、継続・現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10030002

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4	簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17	上・下水道の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	水道の安定供給	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	雄武町簡易水道事業経営戦略策定事業					
事業期間	平成29年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	経営戦略の策定					
事業目標	平成29年度策定					
住民参加	無					
住民協働	無					
			見直し年度			
			担当課	10 建設水道課		
			関係課	#N/A		
			ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
			関係例規・法令名			
			関係個別計画名			

		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	経営戦略の策定(策定業務委託)					経営戦略の策定(策定業務委託)
	・総務省からの通知により、平成32年度までに全公営企業で策定率100%を目標として、策定が求められております。このことから、簡易水道事業の今後の経営基盤強化等に資することを目的として策定するものであります。 なお、簡易水道事業は、平成29年度から経営戦略の策定が地方交付税の算定要件に影響を及ぼすことになるものの、本町では影響がないため、公共下水道事業は28年度に先行して策定しますが、簡易水道事業は本町の最上位計画である総合計画の次期計画期間と併せて結びついた内容として29年度に策定するものです。					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	4,212	0	0	0	4,212
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	4,212				4,212	
一般財源	0					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,672	0	0	0	3,672
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	3,672				3,672	
一般財源	0					
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
						(実施内容等) ・策定業務委託による雄武町簡易水道事業経営戦略策定
						※事務事業評価結果 A-終了
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値				策定
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	87%
	第6期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	0%	0%	0%	87%
		備考欄				

事業名	雄武町簡易水道事業経営戦略策定事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道業務係	作田 竜人

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町簡易水道事業	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	簡易水道事業の経営基盤強化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	将来にわたって安定的に事業を継続していくため、経営の指針となるべく経営戦略を策定し、更なる経営健全化に取り組む中で経営基盤の強化を図る。	① 経営戦略の策定	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	簡易水道事業のより一層の経営基盤強化と財政マネジメントの向上		目標値	1式策定
			実績値	1式策定
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	策定委託業務による経営戦略の策定	総合計画や公共施設等総合管理計画、人口ビジョン等を手がけており、本町の状況を把握している株式会社ぎょうせいに委託し、現状の課題分析を始め、将来的な財政状況の予測を行うなど経営課題を見極めたうえで投資・財政計画を盛り込み、総務省の示す事項に沿って取りまとめを行い、経営戦略を策定した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	総務省の要請により、全公営企業において10年以上を基本とした中長期的な計画の策定が求められている。現時点では本町には影響ないが、計画策定の有無が地方交付税の算定額に関わっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	総務省のガイドラインに基づき、投資・財政計画を策定することで、経営状況を把握することができた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	平成30年度から平成39年度を計画期間とした中長期計画を策定することで、各年度における投資額の平準化や、水需要を考慮した性能の合理化を図っているため効率的である。また、本町の最上位計画である総合計画と計画期間を合わせることで効率的に試算している。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	ほとんどの町民が簡易水道を利用しており、概ね公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通りかつ総務省の示す事項に沿って経営戦略を策定したことから、目標を達成した。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
今後、計画と実績が乖離した場合は、計画の見直しが必要と考えるが、策定自体は完了したことから、終了とする。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10030010

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	12.5	4	簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ※前期実施計画期間中である平成23年度に導入したシステムであり、賃借及び保守について、平成27年度までの長期継続契約を締結している。その後は、新機種への更新までの間は単年契約を締結する。
基本施策	21	情報通信網の整備・充実	事業優先度	B		
単位施策	2	行政情報化の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	上下水道料金管理電算機更新導入事業			見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度			担 当 課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町			関 係 課	#N/A	
事業指標	導入機器数				#N/A	
事業目標	システム一式			ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無			関係例規・法令名		
住民協働				関係個別計画名		

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	メーター検針業務、上下水道料金請求及び収納管理の効率化を図るべく電算機をH23に更新。5年間の長期継続契約による賃貸借契約、保守契約を締結し、所要経費を支出する。	・電算機更新による経費支出 (長期継続契約に基づく賃借料 及び保守料支払)	・電算機更新による経費支出 (長期継続契約に基づく賃借料 及び保守料支払)	・電算機更新による経費支出 (長期継続契約に基づく賃借料 及び保守料支払)	・電算機更新による経費支出 (長期継続契約終了につき、単 年度契約によるシステム使用 料及び保守料支払)	・電算機更新による経費支出 (長期継続契約終了につき、単 年度契約によるシステム使用 料及び保守料支払)
	※なお、平成27年度いっぱいをもって長期継続契約が終了となり、その後は単年度契約により、平成29年度まで使用を予定している。後継機のWEB版は既にリリースされているが、第6期計画に搭載して導入を予定している。なお、現行機器の一部は保守が対象外となるものの、不具合等においては修繕で対応することとした。	※事業費支払案分 簡易水道事業特別会計 70% 公共下水道事業特別会計 30%	※事業費支払案分 簡易水道事業特別会計 70% 公共下水道事業特別会計 30% (消費税8%)	※事業費支払案分 簡易水道事業特別会計 70% 公共下水道事業特別会計 30%	※事業費支払案分 簡易水道事業特別会計 70% 公共下水道事業特別会計 30%	※事業費支払案分 簡易水道事業特別会計 70% 公共下水道事業特別会計 30%
計 画 事 業 費	事業費(千円)	13,556	3,348	3,372	3,372	1,757
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	13,514	3,348	3,372	3,372	1,756
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) ・水道料金システム電算機導入 による稼働・運用 (5年間リース契約、保守契約)	(実施内容等) ・水道料金システム電算機導入 による稼働・運用 (5年間リース契約、保守契約)	(実施内容等) ・水道料金システム電算機導入 による稼働・運用 (5年間リース契約、保守契約)	(実施内容等) ・水道料金システム電算機導入 による稼働・運用 (長期継続契約終了後、単年度 リース契約・保守契約)	(実施内容等) ・水道料金システム電算機導入 による稼働・運用 (長期継続契約終了後、単年度 リース契約・保守契約)
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	システム一式	システム一式	システム一式	システム一式
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	100%	100%	100%	100%
	全体達成率	25%	50%	74%	87%	
	備考欄					98%
						100%

事業名	上下水道料金管理電算機更新導入事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道業務係	作田 竜人

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民・水道検針業務	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	・料金請求、収納管理の適正化 ・水道検針業務	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	検針漏れ防止や迅速処理が可能となり、委託業者とのデータ授受を速やかに行うことができる。 さらに検針データのシステムへの伝送により、迅速かつ適正な料金管理が行えるとともに異常水量の早期把握により、漏水等の早期発見が可能となる。	① 導入による稼働、運用機器数	目標年度	平成29年度
			目標値	1式
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	効率的かつ適正な行政運営、住民サービス	②	実績値	1式
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	上下水道料金システム導入による適正な稼働、運用	システムを適正に稼働、運用することで事務の適正化、効率化を図った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町が水道事業者であることから、適正な料金管理はもとより、効率的な運営を行うため、必要であった。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		システム導入による検針時間の短縮やデータ授受の簡素化など大きな効果が得られている。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		従来システム導入業者との随意契約とし、リース契約することで単年度ごとの事業費を抑制した。また、システム導入による検針時間が大幅に短縮されており、事務の効率アップにつながった。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	人員削減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由		専用水道や営農用水の配水地域を除き、ほとんどの町民が利用している簡易水道に係るシステムであり、概ね公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通りシステムを稼働、運用しており、期待した効果が得られていることから、目標を達成している。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
現行システムは平成23年度に導入しており、ほとんどの機器が保守対象外となることから、本事業は終了とし、平成30年度以降においては新規事業を登録している。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040010

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4 簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 水道の安定供給	政策事務分類	4 法定自治事務	
事業名	簡易水道事業量水器更新事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	計量法に基づく料金の適正化を図る。		#N/A	
事業目標	検定満了量水器更新台数	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容					
計画内容	計量法第9条に基づく、量水器検定満了期間8年での更新が義務付けられており、使用水量に対する料金徴収を適正に行うための事業であります。	更新対象量水器 Φ13～50mm 316台 ・材料費 6,345千円 ・工事請負費 6,636千円 合計 12,981千円	更新対象量水器 Φ13～100mm 314台 ・材料費 6,472千円 ・工事請負費 7,460千円 合計 13,932千円	更新対象量水器 Φ13～40mm 315台 ・材料費 6,699千円 ・工事請負費 7,858千円 合計 14,557千円	更新対象量水器 Φ13～75mm 328台 ・材料費 7,851千円 ・工事請負費 8,800千円 合計 16,651千円	更新対象量水器 Φ13～75mm 328台 ・材料費 6,960千円 ・工事請負費 8,182千円 合計 15,142千円	
	事業費(千円)	73,263	12,981	13,932	14,557	16,651	15,142
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	73,263	12,981	13,932	14,557	16,651	15,142	
実績事業費	事業費(千円)	68,804	12,471	13,435	12,550	15,746	14,602
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	68,804	12,471	13,435	12,550	15,746	14,602	
関連事項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 更新対象量水器 Φ13～50mm 307台 ・材料費 6,013千円 ・工事請負費 6,458千円 合計 12,471千円 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 更新対象量水器 Φ13～100mm 309台 ・材料費 6,329千円 ・工事請負費 7,106千円 合計 13,435千円 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 更新対象量水器 Φ13～100mm 282台 ・材料費 5,638千円 ・工事請負費 6,912千円 合計 12,550千円 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 更新対象量水器 Φ13～75mm 324台 ・材料費 7,225千円 ・工事請負費 8,521千円 合計 15,746千円 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 更新対象量水器 Φ13～75mm 328台 ・材料費 6,664千円 ・工事請負費 7,938千円 合計 14,602千円 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	316台	314台	315台	328台	328台
		年度達成率		96%	96%	86%	95%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率		17%	35%	52%	74%
	備考欄						

事業名	簡易水道事業量水器更新事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	量水器更新台数	
【抱える課題やニーズは】	適正な使用水量の把握	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	計量法に基づいた適正な更新	① 更新量水器/更新量水器実績	目標年度 目標値	平成29年度 328台
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適正な使用水量の把握		実績値	328台
			達成度	100.0%
		②	目標年度 目標値	平成29年度 〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による物品購入と工事の実施	入札により民間業者発注し、量水器更新事業を行った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	計量法に基づいて量水器を更新することは、適正な使用水量を把握するうえで、町が担う必要のある事業である。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	検定満了期間に合わせた量水器の更新により、適正な使用水量が把握できた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	入札により事業費が軽減されたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	量水器の更新で使用水量が把握できたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計量法に基づいた量水器更新は、今後も計画通りに事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
計量法に基づいた量水器更新は、継続、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040020

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4	簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17	上・下水道の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	水道の安定供給	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	浄水場電気機械設備更新整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10	建設水道課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	更新施設数				#N/A	
事業目標	2施設		ハード/ソフト 事業区分	1	ハード事業	
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働	無		関係個別計画名			

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	<p>簡易水道統合に伴い、雄武、沢木、幌内浄水場の3施設に係る電気機械設備更新整備事業として、青葉第二浄水場の電気計装設備が平成20年に納入、稼働を開始しており、5年経過による消耗機器の更新が必要となります。 また、沢木、幌内浄水場稼働開始から10年が経過するに伴い、同様の整備更新が必要となることから、要望いたします。</p>	<p>沢木浄水場 ・UF膜ろ過装置薬品洗浄他工事 (前処理ファイバックス洗浄)</p> <p>浄水場電気計装部品更新工事 ・青葉第二中央監視装置ハードディスク ・ " " サーバー装置ハードディスク ・ " " 自家発オイル・冷却水交換 ・量水器室 UPS 電池交換 ・低区配水池UPS 電池交換 ・末広配水池 電磁接触器取替 ・水質計測器消耗部品取替 ・沢木浄水場自家発オイル・冷却水交換</p>	<p>沢木浄水場 ・粒状活性炭更新工事</p> <p>浄水場電気計装部品更新工事 ・青葉第二中央監視装置ハードディスク ・ " " UPS 電池交換 ・ " " シーケンサ電池 ・低区配水池 UPS電池交換 ・沢木浄水場 UPS 電池交換 ・末広配水池 電磁接触器取替 ・水質計測器消耗部品取替</p>	<p>沢木浄水場 ・UF膜ろ過装置薬品洗浄他工事 (前処理ファイバックス洗浄)</p> <p>浄水場電気計装部品更新工事 ・青葉第二 サーバー装置ハードディスク ・ " " UPS電池・ファン ・ " " 自家発オイル・冷却水交換 ・沢木浄水場自家発オイル・冷却水交換 ・役場庁舎 監視 UPS 電池・ファン ・末広配水池 電磁接触器取替 ・水質計測器消耗部品取替</p>	<p>浄水場電気計装部品更新工事 ・青葉第二 サーバー装置ハードディスク ・ " " 自家発蓄電池取替 ・低区配水池UPS 電池交換 ・末広配水池 電磁接触器取替 ・水質計測器消耗部品取替 ・沢木浄水場自家発蓄電池取替</p>	<p>沢木浄水場 ・UF膜ろ過装置薬品洗浄他工事 (前処理ファイバックス洗浄)</p> <p>浄水場電気計装部品更新工事 ・青葉第二 自家発オイル・冷却水交換 ・沢木浄水場自家発オイル・冷却水交換 ・末広配水池 電磁接触器取替 ・水質計測器消耗部品取替</p>	
	事業費(千円)	24,450	3,800	8,500	4,950	1,850	5,350
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	24,450	3,800	8,500	4,950	1,850	5,350	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	23,438	3,728	8,100	4,752	1,804	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	23,438	3,728	8,100	4,752	1,804	5,054	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	<p>(実施内容等)</p> <p>・UF膜ろ過装置薬品洗浄他工事 2,258千円</p> <p>・浄水場電気計装部品更新工事 1,470千円</p> <p>合計 3,728千円</p> <p>※事務事業評価結果 A-継続/現状維持</p>	<p>(実施内容等)</p> <p>・沢木浄水場活性炭更新工事 6,480千円</p> <p>・浄水場電気計装部品更新工事 1,620千円</p> <p>合計 8,100千円</p> <p>※事務事業評価結果 A-継続/現状維持</p>	<p>(実施内容等)</p> <p>・沢木浄水場UF膜ろ過装置薬品洗浄他工事 2,916千円</p> <p>・浄水場電気計装部品更新工事 1,836千円</p> <p>合計 4,752千円</p> <p>※事務事業評価結果 A-継続/現状維持</p>	<p>(実施内容等)</p> <p>・浄水場電気計装部品更新工事 1,804千円</p> <p>合計 1,804千円</p> <p>※事務事業評価結果 A-継続/現状維持</p>	<p>(実施内容等)</p> <p>・UF膜ろ過装置薬品洗浄他工事 2,916千円</p> <p>・浄水場電気計装部品更新工事 2,138千円</p> <p>合計 5,054千円</p> <p>※事務事業評価結果 A-継続/現状維持</p>	
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	2施設	2施設	2施設	1施設	2施設
	年度達成率	98%	95%	96%	98%	94%	
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	15%	48%	68%	75%	96%
	備考欄						

事業名	浄水場電気機械設備更新整備事業	評価者	管理職	職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者	職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	更新整備施設数								
【抱える課題やニーズは】	機器故障による浄水処理機能停止	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	浄水機能の維持継続による安定稼動	① 施設数/整備施設数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2施設</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2施設</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	2施設	実績値	2施設	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	2施設										
実績値	2施設										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安心・安全な水供給が図られる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による更新整備事業を実施した。	見積により民間業者に発注し、更新整備事業を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民生活や産業諸活動に対し、水質の安定維持と供給確保のための浄水施設更新整備を行うことは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	電気機械設備の更新整備により、施設の延命及び水質維持のための施設整備が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	稼動頻度が高い設備優先による更新整備の実施及び使用可能設備の再使用による経費節減を図ったことは、有効的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	水の安定供給が図られたことから、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
水の安定供給のためには、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
水の安定供給のためには、機能現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040030

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4 簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 水道の安定供給	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	簡易水道事業管路漏水調査事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	有収率向上		#N/A	
事業目標	55,000m	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	雄武簡易水道給配水管路漏水調査業務により、有収率向上を図るため実施するものです。	・雄武簡易水道給配水管 漏水調査業務 L=13, 000m	・沢木・幌内簡易水道配水管 漏水調査業務 L=13, 000m	・雄武町簡易水道配水管 漏水調査業務 L=9,000m	・雄武町簡易水道配水管 漏水調査業務 L=10,000m	・雄武町簡易水道配水管 漏水調査業務 L=10,000m
	事業費(千円)	6,616	1,300	1,540	1,176	1,300
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	6,616	1,300	1,540	1,176	1,300	1,300
実 績 事 業 費	事業費(千円)	5,678	1,239	1,210	1,080	1,112
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	5,678	1,239	1,210	1,080	1,112	1,037
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 雄武地区簡易水道給配水管 漏水調査業務 L=13, 000m	(実施内容等) 沢木・幌内地区簡易水道漏水 調査業務 L=12, 130m	(実施内容等) 幌内地区簡易水道漏水 調査業務 L=8,000m	(実施内容等) 沢木地区簡易水道漏水 調査業務 L=6,920m	(実施内容等) 雄武地区簡易水道漏水 調査業務 L=7,600m
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値 13,000m	13,000m	9,000m	6,920m	10,000m
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率 95%	79%	92%	86%	80%
	全体達成率 19%	37%	53%	70%	86%	
	備考欄					

事業名	簡易水道事業管路漏水調査事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	漏水調査延長		
【抱える課題やニーズは】	給配水管破裂事故による断水		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	漏水量の低減、破裂事故による断水の未然防止を図る。		① 漏水調査延長/漏水調査延長の実績	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安定供給の維持、強化を図る。			目標値	10,000 m
			実績値	7,600 m	
			達成度	76.0 %	
		②	目標年度	平成29年度	
			目標値	〇〇	
			実績値	〇〇	
			達成度	#DIV/0! %	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による委託の実施	入札により民間業者に発注し、漏水調査事業を行った。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	漏水量低減、安定供給維持のための業務は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	漏水が発見され修理できたことは、漏水量低減が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	入札により事業費が軽減されたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	漏水量が低減し、安定供給が維持されたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
水の安定供給のためには、今後も漏水量の把握に努め事業を進めることが適当であると判断する。		
↓	↓	↓
今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
水の安定供給のためには、継続現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040040

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4 簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 水道の安定供給	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	弁篋補修他小工事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	配水施設数		#N/A	
事業目標	3施設の適切な補修	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計画内容	雄武町簡易水道配水管設備の仕切弁篋補修の他、給配水管における突発的な改修の必要に応じ柔軟な対応を図るための事業であります。	仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含) ・給配水管改修	仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含) ・給配水管改修	仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含) ・給配水管改修	仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含) ・給配水管改修	仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含) ・給配水管改修	
	事業費(千円)	5,973	1,000	1,130	1,243	1,300	
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	5,973	1,000	1,130	1,243	1,300		
実績事業費	事業費(千円)	5,555	961	1,048	1,183	1,251	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	5,555	961	1,048	1,183	1,112	1,251	
関連事項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等) 仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含) ・給配水管改修	(実施内容等) 仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含)	(実施内容等) 仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含)	(実施内容等) 仕切弁篋補修他小工事 ・弁篋補修(標識含)	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	適切な補修	適切な補修	適切な補修	適切な補修	
		年度達成率		96%	93%	95%	86%
	第6期計画への継続 (継続無し)	全体達成率		16%	34%	53%	72%
	備考欄						

事業名	弁篋補修他小工事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	適切な補修								
【抱える課題やニーズは】	給配水管破裂事故による断水被害の拡大	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	断水被害の防止	① 適切な補修/適切な補修実績	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>適切な補修</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>適切な補修</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	適切な補修	実績値	適切な補修	達成度	100.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	適切な補修										
実績値	適切な補修										
達成度	100.0 %										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安定供給の維持・確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0! %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による補修整備の実施	見積により民間業者に発注し、本事業を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民生活のライフラインである水道管路維持業務を遂行するためには、町が補修整備を行う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	水道管路の補修整備が適正に行われたことは、円滑な業務遂行が図られる。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	見積により事業費が軽減されたことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民生活のライフラインである水道管路維持業務を遂行するための補修整備が図られたことは、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
水道管路維持を図るためには、当該事業を実施する必要がある、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
水道管路事故時の断水被害の拡大防止のためには、継続・現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040050

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4	簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ・1路線 町道海岸線(元稲府～港町) 更新延長 L=3500m 事業年度 平成26年～平成31年度 6カ年 ・2路線 町道音稲府開拓線(青葉第一浄水場～量水器室) 更新延長 L=1,400m 事業年度 平成31年～平成34年度 4カ年 全体事業実施 9カ年 更新延長合計 L=4,900m
基本施策	17	上・下水道の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	水道の安定供給	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	雄武地区配水管更新事業		見直し年度			
事業期間	平成26年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	配水管更新延長		関係課	#N/A		
事業目標	2,236m		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名			

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容		事業内容		事業内容	
計 画 内 容	雄武地区配水管において、昭和50年に布設され36年が経過した管路について、最も漏水事故の発生が懸念される2路線の配水管を、町道沿いに布設替を行い漏水等、破裂事故を未然防止し、安定給水を図ることから実施するものです。 ・1路線 町道海岸線 更新延長 L=3,500m (元稲府 旧須藤水産前 ～ 港町 旧漁組工場前) (1路線 全体3,500m H26～H29 L= 2,236m実施)		町道海岸線 実施調査設計 配水管更新工事 L=850m	町道海岸線 実測調査設計 配水管更新工事 L=710m	町道海岸線 配水管更新工事 L=260m (内元稲府橋添架管L=70m含)	町道海岸線 実測調査設計 配水管更新工事 L=835m	
	事業費(千円)	329,370	0	59,000	92,400	81,970	96,000
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	61,670		11,800	18,500	10,970	20,400
	道支出金	0					
	地方債	235,500		42,400	66,500	61,000	65,600
	その他	0					
一般財源	32,200		4,800	7,400	10,000	10,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	316,570	0	52,596	89,392	80,892	93,690
	財源内訳						
	国庫支出金	61,670		11,800	18,500	10,970	20,400
	道支出金	0					
	地方債	230,200		40,000	64,000	60,600	65,600
その他	0						
一般財源	24,700		796	6,892	9,322	7,690	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	◎国庫支出金 ・生活基盤近代化事業 基幹改良(約20%) ◎地方債 ・簡易水道事業債(50%) ・過疎債(50%)	【評価・実績】	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
			850m	710m	260m	835m	
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値					
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	89%	97%	99%	98%
	全体達成率	0%	16%	43%	68%	96%	
	備考欄						

事業名	雄武地区配水管更新事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	更新延長								
【抱える課題やニーズは】	配水管破裂による断水	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	断水の未然防止	① 更新延長/更新延長実績	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>835 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>835 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	835 m	実績値	835 m	達成度	100.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	835 m										
実績値	835 m										
達成度	100.0 %										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安定供給の確保・強化	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0! %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による配水管更新の実施	入札により民間業者に発注し、配水管更新を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	生活用水の安定供給確保のための配水管更新は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	断水事故の未然防止が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	入札により事業費が軽減されたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	生活用水の安定供給が維持されたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
配水管更新により断水事故等の未然防止が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
水の安定供給のためには、継続現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了
- 休止
- 廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040100

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4 簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 水道の安定供給	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	老朽消火栓更新事業	見直し年度		
事業期間	平成26年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	更新基数		#N/A	
事業目標	16基	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	雄武市街地区の各所に設置されている消火栓は古いもので55年が経過しており、内部腐食による漏水の発生及び、故障により消火活動に支障を来す恐れがあることから、昭和30年代に設置している老朽化の著しい順から更新を実施するものです。		雄武地区 消火栓更新工事 4基	雄武地区 消火栓更新工事 4基	雄武地区 消火栓更新工事 4基	雄武地区 消火栓更新工事 4基
	・消火栓更新台数 16基		更新箇所 ・魚田 原田宅前 (S32設置) ・末広一区 雄武小学校前 (S34) ・錦町 味の表前 (S32) ・港町 光陽工機横 (S32設置)	更新箇所 ・幸町 第一分団横 (S32) ・北浜町 片川宅前 (S32) ・魚田 旧鳥谷部商店横 (S32) ・宮下町 神社前 (S32)	更新箇所 ・旭町 花田水産前 (S32設置) ・魚田 西田宅前 (S32設置) ・日の出北町 日の出団地前 (S34) ・新日の出町 消火栓新設	更新箇所 ・潮見町 潮見公住前 (S36設置) ・潮見町 旧吉田商店前 (S37設置) ・日の出仲町 早坂宅前 (S34) ・新沢木 沢木郵便局前 (S48設置)
計 画 事 業 費	事業費(千円)	20,870	0	4,700	5,170	5,500
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	20,870	0	4,700	5,170	5,500	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	19,999	0	4,320	4,968	5,333
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	19,999		4,320	4,968	5,333	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		消火栓更新工事 4基 4,320千円	消火栓更新工事 4基 4,968千円	消火栓更新工事 4基 5,333千円 (3基更新、1基新設)	消火栓更新工事 4基 5,378千円
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値		4基	4基	4基
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	92%	96%	97%
	全体達成率	0%	21%	45%	70%	
	備考欄					

事業名	老朽消火栓更新事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道用水	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	更新整備基数		
【抱える課題やニーズは】	経年劣化による消火活動への支障		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防用水の安定供給確保・強化			①	目標年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	住民の生命・財産確保		更新基数/更新基数実績	目標値	4基
				実績値	4基
		達成度		100.0%	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による消火栓更新の実施	入札により民間業者に発注し、消火栓更新を行った。	②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇	
			実績値	〇〇	
			達成度	#DIV/0!%	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	経年劣化による消火栓更新は、住民生活を守るうえで町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	消火活動に必要な消防用水が確保された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	老朽度が高い消火栓優先による更新整備及び使用可能消火栓の再使用による経費節減を図ったことは、有効的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> その他	
/課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	住民生活を守るための消防用水が確保されたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
/公平でない		

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
消防用水確保のためには、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		
↓	↓	↓
今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
消防用水確保のためには、継続現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040120

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4 簡易水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 水道の安定供給	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	沢木水源土砂流入防止篋設置事業	見直し年度		
事業期間	平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	施設整備		#N/A	
事業目標	1施設	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	沢木水源取水施設上流部に設置されていた篋が、度重なる大雨の影響で徐々に破壊されたため、大雨のたびに土砂が堆積して取水管を閉塞させる恐れがあることから、篋を整備して土砂の流入防止を図るものです。					沢木水源取水施設篋設置工事 L=18.4m
	事業費(千円)	5,000	0	0	0	5,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	5,000				5,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,860	0	0	0	4,860
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	4,860				4,860	
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値				1施設
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	97%
	全体達成率	0%	0%	0%	97%	
	事業進捗状況					

事業名	沢木水源土砂流入防止管設置事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	管設置施設数	
【抱える課題やニーズは】	水源取水施設土砂流入閉塞による断水	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	安定取水	① 設置施設数/設置施設数 実績	目標年度	平成29年度
			目標値	1施設
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	水の安定供給が図られる。	②	実績値	1施設
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による土砂流入防止管設置の実施	入札により民間業者に発注し、設置事業を行った。	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民生活や産業諸活動に対し、水の安定供給維持のための施設整備を行うことは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	土砂流入防止管が設置され、断水事故防止が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	土砂流入防止対策による安定取水が図られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 人員削減	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	水の安定供給が図られたことから、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
水の安定供給のための取水施設整備が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
----	--	--

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10040130

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	4 簡易水道事業会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 水道の安定供給	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道魚田14号線配水管整備事業	見直し年度		
事業期間	平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	布設整備延長		#N/A	
事業目標	200m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	町道魚田14号線に水道水供給のための配水管を布設して、生活用水並びに水産加工工場等への基盤整備を図るものです。					配水管整備工事 ・VWP φ75mm L=200m
	事業費(千円)	20,000	0	0	0	20,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	20,000				20,000
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称 簡易水道事業債 50% 過疎債 50%	【評価・実績】	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) 配水管整備工事 L=200m ※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値				200m
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100%
		全体達成率	0%	0%	0%	100%
		事業進捗状況				

事業名	町道魚田14号線配水管整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	水道係長	江田 一夫

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、水道	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	配水管整備延長	
【抱える課題やニーズは】	生活用水及び産業諸活動への支障	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	生活用水及び産業諸活動への安定供給確保	① 整備延長/整備延長実績	目標年度	平成29年度
			目標値	200 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安定供給の確保・強化	②	実績値	200 m
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による配水管整備の実施	入札により民間業者に発注し、配水管整備を行った。	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	生活用水の安定供給確保のための配水管整備は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	生活用水の供給確保が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	入札により事業費が軽減されたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	生活用水の安定供給が確保されたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
配水管整備により生活用水が確保された。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
----	--	--

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10050010

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	6 下水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武浄化センター機器分解整備：165基～継続事業
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	B	
単位施策	2 下水道の普及促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	雄武浄化センター機器分解整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	分解整備機器		#N/A	
事業目標	43基	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	雄武浄化センター機器分解整備～43基	雄武浄化センター機器分解整備 ・No.3返送汚泥ポンプ ・No.2余剰汚泥ポンプ ・宮下MP汚水ポンプ～2台 ・浄化センターUPS/バッテリー ・MP非常通報装置バッテリー交換～4箇所	雄武浄化センター機器分解整備 ・汚水MP汚水ポンプ～2台 ・MP非常通報装置バッテリー交換～3箇所 ・ケーキホツバ重量計 ・計装設備点検 ・浄化センター電話機主装置	雄武浄化センター機器分解整備 ・2系曝気装置～2台 ・汚泥脱水機点検 ・中央監視装置点検 ・オコツナイ川IMP羽根車～1箇所 ・MP非常通報装置バッテリー交換～2箇所	雄武浄化センター機器分解整備 ・2系曝気装置～2台 ・ポンオコツナイ川IMP汚水ポンプ～2台 ・汚水MP汚水ポンプ～2台 ・自家発電設備 ・No.2終沈パイプスキマー ・場内外灯～4灯	雄武浄化センター機器分解整備 ・スカムポンプ ・一号幹線MP汚水ポンプ～2台 ・オコツナイ川IMP汚水ポンプ～2台 ・ポンオコツナイ川第2MP汚水ポンプ～2台 ・2号幹線MP配管及び中間グレーチング修繕	
	事業費(千円)	41,300	6,000	6,000	8,800	11,250	9,250
計 画 事 業 費	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他 一般財源	41,300 0	6,000	6,000	8,800	11,250	9,250
実 績 事 業 費	事業費(千円)	40,936	5,933	5,940	8,694	11,232	9,137
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他 一般財源	40,936 0	5,933	5,940	8,694	11,232	9,137	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 雄武浄化センター機器分解整備	(実施内容等) 雄武浄化センター機器分解整備	(実施内容等) 雄武浄化センター機器分解整備	(実施内容等) 雄武浄化センター機器分解整備	(実施内容等) 雄武浄化センター機器分解整備
	◎その他 一般会計繰入金	【評価・実績】	・No.3返送汚泥ポンプ ・No.2余剰汚泥ポンプ ・宮下MP汚水ポンプ～2台 ・浄化センターUPS/バッテリー ・MP非常通報装置バッテリー交換～3箇所 ※事務事業評価結果 A-継続-現状維持	・汚水MP汚水ポンプ～2台 ・MP非常通報装置バッテリー交換～3箇所 ・ケーキホツバ重量計 ・計装設備点検 ※事務事業評価結果 A-継続-現状維持	・2系曝気装置～2台 ・汚泥脱水機点検 ・中央監視装置点検 ・オコツナイ川IMP羽根車～1箇所 ・MP非常通報装置バッテリー交換～2箇所 ※事務事業評価結果 A-継続-現状維持	・2系曝気装置～2台 ・ポンオコツナイ川IMP汚水ポンプ～2台 ・汚水MP汚水ポンプ～2台 ・自家発電設備、No.2終沈パイプスキマー ・場内外灯～4灯 ※事務事業評価結果 A-継続-現状維持	・スカムポンプ～1台 ・一号幹線MP汚水ポンプ～2台 ・オコツナイ川IMP汚水ポンプ～2台 ・ポンオコツナイ川第2MP汚水ポンプ～2台 ・2号幹線MP配管及び中間グレーチング修繕 ※事務事業評価結果 A-継続/統合
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	9基	8基	7基	12基	7基
		年度達成率	99%	99%	99%	100%	99%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	14%	29%	50%	77%	99%
	備考欄						

事業名	雄武浄化センター機器分解整備事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者 職氏名	下水道係長	下斗米 勇

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、雄武浄化センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	分解整備機器数								
【抱える課題やニーズは】	機器故障による浄化センターの機能停止	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	汚水を浄化するための機器の安全稼動	① 分解整備機器数(目標値) / 分解整備機器数(実績値)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>7基</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>7基</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	7基	実績値	7基	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	7基										
実績値	7基										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	公共用水域の水質保全及び居住環境の向上	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による機器修繕の実施	民間業者に依頼し、機器の消耗部品の取替を含む分解整備を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するためには、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり		<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	機器の消耗部品の取替を含む分解整備により、機器の延命化が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	雄武浄化センター維持管理委託業務の受託者に依頼したことで経費の削減を図ったことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	公共用水域の水質保全、快適な居住環境の確保が図られたことは、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
機器更新時期までの延命化を図るためには、当該事業を実施する必要があり、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/統合		
機器の故障を未然に防ぐため継続が適当であると判断する。また、さらなる経費削減のため、第6期総合計画からは雄武町公共下水道施設維持管理事業を新設し、同様の分解整備事業である雄武公共下水道コンポスト施設機器分解整備と一括発注する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10050020

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	6 下水道事業会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成32年度迄 A=221ha 全体計画事業費C=13,975,000千円
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	A	
単位施策	2 下水道の普及促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	雄武公共下水道事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	管渠延長・施設更新件数		#N/A	
事業目標	1,276m・10件	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加 住民協働	無	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

		全体計画	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	◆管渠 ・魚田地区(スターレスト付近):L=120m 管渠工事・実測調査設計 ・幸町地区(町道梅小路):L=60m 管渠工事・実測調査設計 ・末広町1区地区(クラフトパーク):L=100m 管渠工事・実測調査設計 ・開生地区(佐野宅):L=60m 管渠工事・実測調査設計 ・魚田地区(畠森水産):L=316m 管渠工事・実測調査設計 ・MP更新工事 ・ストックマネジメント計画策定(管渠) ・雄武公共下水道事業変更認可 ◆処理場 ・処理場機器改築更新工事 ・ストックマネジメント計画策定(処理場) ◆舗装補修工事 ◆公共樹設置工事	◆管渠 ・魚田地区(スターレスト付近) L=120m 実測調査設計 ◆処理場 ・処理場機器改築更新実施設計 ・処理場機器改築更新単価策定 ◆舗装補修工事	◆管渠 ・魚田地区(スターレスト付近) L=120m 管渠工事 ・幸町地区(町道梅小路) L=60m 実測調査設計 ◆処理場 ・処理場機器改築更新工事 ・処理場機器改築更新工事監理 ・処理場機器改築更新実施設計 ・処理場機器改築更新単価策定 ◆舗装補修工事	◆管渠 ・幸町地区(町道梅小路) L=40m 管渠工事 ・末広町1区(クラフトパーク) L=100m 実測調査設計 ・開生地区(佐野宅) L=60m 実測調査 ・雄武公共下水道事業変更認可 ◆処理場 ・処理場機器改築更新工事 ・処理場機器改築更新実施設計 ◆舗装補修工事	◆管渠 ・開生地区(佐野宅) L=60m管渠工事 ・末広町1区(クラフトパーク) L=100m管渠工事 ・魚田地区(畠森水産) L=300m実測調査設計 ・MP更新工事(宮下MP) ◆処理場 ・処理場機器改築更新工事 ・処理場機器改築更新工事監理 ・処理場機器改築更新実施設計 ・処理場機器改築更新単価策定 ◆舗装補修工事 ◆公共樹設置工事	◆管渠 ・魚田地区(畠森水産) L=316m管渠工事 ・ストックマネジメント計画策定(管渠) ・MP更新工事(30川IMP、大川IMP) ・可搬型発電機及び運搬車両購入 ◆処理場 ・処理場機器改築更新工事 ・処理場機器改築更新単価策定 ・ストックマネジメント計画策定(処理場) ◆舗装補修工事 ◆公共樹設置工事		
	事業費(千円)	424,000	14,500	85,500	58,300	157,900	107,800	
計 画 事 業 費	財源内訳	213,850	6,500	43,500	27,400	81,950	54,500	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	道支出金	184,600	6,500	39,500	25,100	73,800	39,700	
	地方債	12,600	700	1,200	2,900	1,000	6,800	
	その他	12,950	800	1,300	2,900	1,150	6,800	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	419,909	12,842	82,379	60,588	156,250	107,850	
	財源内訳	208,471	5,822	40,441	27,319	81,421	53,468	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	道支出金	183,200	5,800	40,300	25,000	73,300	38,800	
	地方債	12,685	610	819	2,700	765	7,791	
その他	15,553	610	819	5,569	764	7,791		
特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
◎国庫支出金		◆管渠 魚田地区(スターレスト付近) L=123m 実測調査設計 ◆処理場 ・処理場機器改築更新実施設計 ・処理場機器改築更新単価策定 ◆舗装補修工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	◆管渠 魚田地区(スターレスト付近) L=122.82m 管渠工事・幸町地区(町道梅小路)L=60m 実測調査設計 ◆処理場 処理場機器改築更新工事、 工事監理、実施設計、単価策定 ◆舗装補修工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	◆管渠 幸町地区(町道梅小路)L=40m 管渠工事 ・末広町1区(クラフトパーク)L=100m 実測調査設計 ・開生地区(佐野宅)L=60m 実測調査 ◆処理場 ・処理場改築更新工事、実施設計 ◆舗装補修工事 ◆公共樹設置工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	◆管渠 開生地区(佐野宅)L=51.3m管渠工事 ・末広町1区(クラフトパーク) L=91.7m管渠工事 ・魚田地区(畠森水産) L=316m実測調査設計 ・MP更新工事(宮下MP) ◆処理場 機器更新工事、工事監理、実施設計、単価策定 ◆舗装補修工事 ◆公共樹設置工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	◆管渠 魚田地区(畠森水産)L=316m管渠工事 ・MP更新工事(30川IMP、大川IMP) ・可搬型発電機及び運搬車両購入 ◆処理場 機器更新工事 ◆ストックマネジメント計画策定(管渠・処理場) ◆舗装補修工事 ◆公共樹設置工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持		
◎地方債	【評価・実績】							
◎その他								
前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	120m・1件	180m・2件	200m・2件	460m・2件	316m・3件		
第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	89%	96%	104%	99%	100%		
	全体達成率	3%	22%	37%	74%	99%		
	備考欄							

事業名	雄武公共下水道事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者 職氏名	下水道係長	下斗米 勇

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、雄武公共下水道施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	管渠布設延長及び設計延長・施設更新件数	
【抱える課題やニーズは】	公共用水域の水質悪化及び快適な居住環境の確保	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	公共用水域の水質保全や快適な居住環境	① 管渠布設及び設計延長(目標値)/管渠布設及び設計延長(実績値)	目標年度 目標値	平成29年度 316 m
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	公共用水域の水質保全及び居住環境の向上		実績値	316 m
			達成度	100.0 %
		② 施設更新件数(目標値)/施設更新件数(実績値)	目標年度 目標値	平成29年度 3 件
			実績値	3 件
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による本工事・実施設計等の実施	入札等により民間業者に本工事・実施設計等を発注し雄武公共下水道事業を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するためには、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		管渠布設工事及び実施設計等を実施したことにより、下水道普及率向上及び水洗化率向上に向けた環境の整備が図られる。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		管渠布設工事及び管渠設計において、再生舗装材の使用や小型塩ビ製マンホールを採用し、コストを抑制することは効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	人員削減	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		下水道管渠布設地域の住民から整備費の一部として、受益者負担金を徴収しており、公平であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するためには必要な事業であり、今後も計画通り事業を進める事が適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
管渠布設工事については、未普及地域を解消するために必要な事業であり、浄化センターについても、老朽化している機器の更新計画を実施し施設の延命化を図るためには現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10050030

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	6 下水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武公共下水道コンポスト施設機器分解整備：32基～継続事業
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	B	
単位施策	2 下水道の普及促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	雄武公共下水道コンポスト施設機器分解整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	分解整備機器		#N/A	
事業目標	14基	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容		
計 画 内 容	雄武公共下水道コンポスト施設機器分解整備～14基	コンポスト施設機器分解整備 ・攪拌機走行レール補修 ・送気フロア2台	コンポスト施設機器分解整備 ・攪拌機 ・送気フロア2台 ・保守点検	コンポスト施設機器分解整備 ・動力変圧器盤 ・低圧動力盤 ・送気フロア2台 ・保守点検	コンポスト施設機器分解整備 ・送気フロア2台 ・保守点検	コンポスト施設機器分解整備 ・送気フロア2台 ・保守点検		
	事業費(千円)	8,370	2,500	2,460	1,430	980	1,000	
計 画 事 業 費	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	0						
	地方債	0						
	その他	0						
一般財源	8,370	2,500	2,460	1,430	980	1,000		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	8,236	2,468	2,430	1,404	962	972	
	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	0						
	地方債	0						
その他	0							
一般財源	8,236	2,468	2,430	1,404	962	972		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) コンポスト施設機器分解整備 ・攪拌機走行レール補修 ・送気フロア2台	(実施内容等) コンポスト施設機器分解整備 ・攪拌機 ・2次発酵棟屋根 ・送気フロア1台 ・保守点検	(実施内容等) コンポスト施設機器分解整備 ・動力変圧器盤 ・低圧動力盤 ・送気フロア2台 ・保守点検	(実施内容等) コンポスト施設機器分解整備 ・送気フロア2台 ・保守点検	(実施内容等) コンポスト施設機器分解整備 ・送気フロア2台 ・保守点検	
		【評価・実績】	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/統合	
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	3基	3基	4基	2基	2基	
		年度達成率		99%	99%	98%	98%	97%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率		29%	59%	75%	87%	98%
	備考欄							

事業名	雄武公共下水道コンポスト施設機器分解整備事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者 職氏名	下水道係長	下斗米 勇

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、雄武公共下水道コンポスト施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	分解整備機器数								
【抱える課題やニーズは】	機器故障による雄武公共コンポスト施設の機能停止	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	下水道汚泥を処理するための機器の安定稼動	① 分解整備機器数(目標値) / 分解整備機器数(実績値)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2基</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2基</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	2基	実績値	2基	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	2基										
実績値	2基										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	下水道汚泥を堆肥化し緑農地還元することにより有効利用を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による機器修繕の実施	民間業者に依頼し、機器の消耗部品の取替を含む分解整備を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	公共用水域の水質保全、快適な居住環境の確保を図るための下水道汚泥処理については、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	機器の消耗部品の取替を含む分解整備により、機器の延命化が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	雄武浄化センター維持管理委託業務の受託者に依頼したことで経費の軽減を図ったことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	公共用水域の水質保全、快適な居住環境の確保を図るべく、下水道汚泥を堆肥化して緑農地還元し有効利用することは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
機器更新時期までの延命化を図るためには、当該事業を実施する必要があり、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/統合		
機器の故障を未然に防ぐため継続が適当であると判断する。また、さらなる経費削減のため、第6期総合計画からは雄武町公共下水道施設維持管理事業を新設し、同様の分解整備事業である雄武浄化センター機器分解整備と一括発注する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10050050

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	6 下水道事業会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成32年度迄 全体事業費C=875,000千円 ・平成30年度 MICS施設詳細設計 ・平成31年度～平成32年度 MICS施設建設工事(土木・建築・機械・電気)
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	A	
単位施策	2 下水道の普及促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	汚水処理施設共同整備事業(雄武町MICS事業)	見直し年度		
事業期間	平成28年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	4 住民生活課	
事業指標	事業採択に向けた協議、下水道事業計画変更、施設基本設計		#N/A	
事業目標	事業採択、2業務	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	・MICS事業採択に向けた協議 ・下水道事業計画変更 ・MICS施設基本設計				・MICS事業採択に向けた協議	・下水道事業計画変更 ・MICS施設基本設計
計 画 事 業 費	事業費(千円)	13,682	0	0	0	13,682
財 源 内 訳	国庫支出金	6,841				6,841
	道支出金	0				
	地方債	800				800
	その他	6,041				6,041
	一般財源	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,896	0	0	0	12,896
財 源 内 訳	国庫支出金	6,448				6,448
	道支出金	0				
	地方債	700				700
	その他	5,687				5,687
	一般財源	61				61
関 連 事 項	特定財源の名称 ◎国庫支出金 ・社会資本整備総合交付金 1/2 5.5/10 ◎地方債 ・下水道事業債 100% ・過疎債 100% ◎その他 ・一般会計繰入金	【評価・実績】	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ・MICS事業採択に向けた協議 ※事務事業評価結果 A-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) ・下水道事業計画変更 ・MICS施設基本設計 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値			事業採択	2業務
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	94%
		全体達成率	0%	0%	0%	94%
		事業進捗状況				

事業名	汚水処理施設共同整備事業(雄武町MICS事業)	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	下水道係長	下斗米 勇

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	興部町、西興部村及び雄武町のし尿等処理	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	発注業務件数								
【抱える課題やニーズは】	西紋別地区環境衛生センターの老朽化に伴い、施設の建設コスト及び維持管理面で優れていることから、興部町、西興部村及び雄武町のし尿等を雄武浄化センターで集約処理する必要性が生じた。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	興部町、西興部村及び雄武町のし尿等の安定処理	① 発注業務件数(目標値)/発注業務件数(実績値)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	2件	実績値	2件	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	2件										
実績値	2件										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	興部町、西興部村及び雄武町のし尿等を雄武浄化センターで集約処理するための前処理施設の建設	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	下水道事業計画変更の実施	国からのMICS事業採択を受け、下水道事業計画にMICS事業計画を登録するため協議を行い事業計画変更を実施した。									
	民間業者による基本設計の実施	入札により民間業者にMICS施設基本設計委託業務を発注し建設予定施設の基本設計を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	興部町、西興部村及び雄武町のし尿等を安定処理するためには、2町1村のし尿等を受入可能な雄武町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	事業計画変更及び基本設計を同年度に実施したことにより事業スケジュールを短縮したため目標を達成したと考える。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業スケジュール短縮のため、北海道担当者と事前調整等を行い時間短縮を図り効率的に事務事業を進めたと判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	興部町、西興部村及び雄武町のし尿等を集約処理する施設であるため、人口割及び投入割で施設建設費用を負担するため、公平であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
興部町、西興部村及び雄武町のし尿等を安定処理するためには必要な事業であり、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
MICS施設については、し尿等を安定処理するために必要な事業であるため現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 11010010

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ○公営住宅潮見団地建替—平成31年度～32年度 ○新規公営住宅団地建設—平成32年度から平成36年度(5ヶ年) 木造平屋 48戸
基本施策	18	住環境の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	良好な住宅・宅地の供給	政策事務分類	2	単独自治事務(個別計画)	
事業名	公営住宅整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10	建設水道課	
事業主体	雄武町		関係課	3	税財管理課	
事業指標	公営住宅の建替			#N/A		
事業目標	公営住宅建替 38戸		ハード/ソフト 事業区分	1	ハード事業	
住民参加 住民協働	有 入居者による住民説明会及び現地見学会の開催		関係例規・法令名	有	公営住宅法	
			関係個別計画名	有	公営住宅等長寿命化計画	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容			
計 画 内 容	○公営住宅新日の出団地建替事業 ・団地建替—10棟38戸 ・団地内整備—駐車場整備38台 幼児遊園600㎡ 敷地造成 ・既設公営住宅除却—11棟44戸 ○公営住宅潮見団地建替事業 ・実施設計—1～3LDK 4棟18戸	公営住宅新日の出団地 建設—木造平屋1棟4戸 駐車場整備—10台 敷地造成工事 (平成24年度繰越明許事業) 建設—木造平屋1棟6戸 既設公住除却—2棟8戸	公営住宅新日の出団地 建設—木造平屋2棟7戸 駐車場整備—7台 既設公住除却—2棟8戸 敷地造成工事	公営住宅新日の出団地 建設—木造平屋2棟7戸 既設公住除却—2棟8戸 敷地造成工事 住生活基本計画策定	公営住宅新日の出団地 建設—木造平屋2棟8戸 駐車場整備—7台 既設公住除却—3棟12戸 敷地造成工事	公営住宅新日の出団地 建設—木造平屋2棟6戸 駐車場整備—15台 既設公住除却—2棟8戸 敷地造成工事			
	計 画 事 業 費	事業費(千円)	815,800	183,100	140,600	155,900	173,500	162,700	
実 績 事 業 費	特定財源の名称 社会資本整備総合交付金	財源内訳	国庫支出金	318,005	68,835				
		道支出金	0						
		地方債	0						
		その他	0						
		一般財源	497,795	114,265	87,938	97,984	98,572	99,036	
事業費(千円)	779,541	178,425	135,239	148,983	167,170	149,724			
【評価・実績】	社会資本整備総合交付金	財源内訳	国庫支出金	328,726	73,094	59,497	56,057	74,016	66,062
		道支出金	0						
		地方債	0						
		その他	0						
		一般財源	450,815	105,331	75,742	92,926	93,154	83,662	
前 期 計 画 か ら の 継 続 (継 続 有 り)	年度目標値		10戸	7戸	7戸	8戸	6戸		
第 6 期 計 画 へ の 継 続 (継 続 有 り)	年度達成率		97%	96%	96%	96%	92%		
	全体達成率		22%	38%	57%	77%	96%		
	備考欄								

事業名	公営住宅整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	建築係主査	長谷川 潤

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	公営住宅入居者・町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	建替計画戸数の確保								
【抱える課題やニーズは】	老朽狭隘公営住宅の住環境整備	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	居住水準の向上と安全で安心な住環境	① 建設戸数の確保	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>6戸</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>6戸</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	6戸	実績値	6戸	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	6戸										
実績値	6戸										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	良質な住宅の供給と、安全で良好な住環境の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、公営住宅新日の出団地2棟6戸の建替を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民に対する住宅供給施策として、公営住宅の老朽狭隘住宅の解消は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	建替事業の推進により老朽・狭隘住宅の解消が図られ、安全で安心な住環境の向上が確保された。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	民間業者に入札で工事を発注したことにより、事業費が抑制されたこと、建替による維持管理費が抑制されたことは効果的と判断される。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	事業実施により、安全で安心な住環境が確保されたことは公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
老朽・狭隘住宅の解消と、安全で安心な住環境整備のため公営住宅整備は、今後も計画どおり進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
公営住宅ストックの効率的な更新整備を行い、多様化する住宅ニーズや公営住宅需要への的確な対応のための必要な事業であり、継続・現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 11010020

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成30年度～32年度 各年度 40,000千円
基本施策	18 住環境の整備	事業優先度	A	
単位施策	2 良好な住生活の確保	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	雄武町快適住まいづくり促進事業	見直し年度	平成27年度	
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	新築及び改修戸数		#N/A	
事業目標	新築・改修 40戸/年	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町快適住まいづくり促進条例	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	勤労者世帯・子育て世帯及び高齢者等世帯に対し、住宅及び住環境の整備による定住を目的とし住宅建設及び改修を行う世帯に資金の一部を補助する。 平成23年度から平成27年度(5ヶ年) 平成28年度から平成32年度(5ヶ年)	快適住まいづくり支援 (社会資本整備総合交付金)	快適住まいづくり支援 (社会資本整備総合交付金)	快適住まいづくり支援 (社会資本整備総合交付金) ※次年度以降に向けた制度内容見直し	快適住まいづくり支援 (社会資本整備総合交付金) 上限40,000千円	快適住まいづくり支援 (社会資本整備総合交付金) 上限40,000千円	
	事業費(千円)	187,000	20,000	47,000	40,000	40,000	40,000
計 画 事 業 費	財源内訳	19,500	3,000	3,000	4,500	4,500	4,500
	国庫支出金	0					
	道支出金	25,000					25,000
	地方債	0					
	その他	142,500	17,000	44,000	35,500	35,500	10,500
一般財源	241,316	43,615	59,791	62,300	36,461	39,149	
実 績 事 業 費	財源内訳	7,039	2,163	2,445	552	1,036	843
	国庫支出金	0					
	道支出金	25,000					25,000
	地方債	0					
	その他	209,277	41,452	57,346	61,748	35,425	13,306
一般財源	特定財源の名称 社会資本整備総合交付金	【評価・実績】	(実施内容等) 補助金交付件数 96件 新築 3件 中古住宅購入 4件 増改修工事 89件 子供加算 1件 認証材加算 1件 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 補助金交付件数 97件 新築 9件 中古住宅購入 1件 増改修工事 87件 子供加算 6件 認証材加算 2件 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 補助金交付件数 102件 新築 9件 中古住宅購入 3件 増改修工事 90件 子供加算 10件 認証材加算 2件 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 補助金交付件数 57件 新築 5件 中古住宅購入 1件 増改修工事 51件 子供加算 2件 認証材加算 1件 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 補助金交付件数 52件 新築 14件 中古住宅購入 2件 増改修工事 36件 子供加算 7件 認証材加算 1件 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	80件	80件	80件	60件	60件	
第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	218%	127%	156%	91%	98%	
(継続無し)	全体達成率	23%	55%	89%	108%	129%	
備考欄	実績額のうちH28繰越分884千円						

事業名	雄武町快適住まいづくり促進事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	建築係主査	長谷川 潤

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	利用者件数の維持	
【抱える課題やニーズは】	町民の定住対策及び子育て支援としての住環境整備	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町民の安全・安心な住環境の確保	① 申請件数の実績	目標年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	住環境整備により、定住及び子育て支援が促進され、活力あるまちづくりを推進する。		目標値	平成29年度
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	社会資本整備総合交付金の活用	国土交通省所管の社会資本整備総合交付金事業として、交付金の導入を図り、町民に対し事業の普及を図った。	実績値	60件
			達成度	52件
			達成度	86.7%
			目標年度	平成29年度
②			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の定住対策、町外からの移住対策及び子育て支援として、住環境の安定と向上のための住環境整備に対し、工事費の一部を支援することは町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	申請件数については、目標件数に至ってはいないが、定住促進のための新築件数が増加していることから、事業として成果が得られている。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業により、町民の居住の安定が図られたことは効果的と判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	住環境の安定向上のため、住環境整備への支援により定住対策及び子育て支援が図られたことは公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
定住対策及び子育て対策として居住の安定、向上への支援については、新築戸数の増加、中古住宅の活用、既存住宅の改修など、施策効果が見られ、今後についても事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
町民が行う住環境整備に対し、工事費等の一部を補助する事業については、居住の安定、向上による定住対策、子育て支援として必要性がある事業であり、継続・現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 11010030

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ○既設町営住宅屋根葺替及び外壁塗装 旭日団地2棟 ○既設町営住宅内部給水給湯管改修 潮見・新町・単身者—3団地13棟
基本施策	18 住環境の整備	事業優先度	B	
単位施策	2 良好な住生活の確保	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	既設町営住宅団地環境整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	3 税財管理課 #N/A	
事業指標	既設町営住宅の維持	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
事業目標	屋根葺替改修3団地17棟 外壁防水改修3団地9棟 外壁塗装改修1団地1棟	関係例規・法令名	有 公営住宅法	
住民参加	無	関係個別計画名	有 公営住宅等長寿命化計画	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	○既設町営住宅団地屋根葺替改修工事 潮見団地—5棟 単身者住宅—6棟 旭日団地 —7棟	既設町営住宅団地屋根葺替改修工事 潮見団地—5棟	既設町営住宅団地屋根葺替改修工事 単身者住宅—6棟	(平成26年度繰越明許) 既設町営住宅外壁防水改修工事 新町団地—2棟	既設町営住宅団地屋根葺替改修工事 旭日団地—2棟	既設町営住宅団地屋根葺替改修工事 旭日団地—3棟
	○既設町営住宅団地外壁防水改修工事 潮見団地—5棟 日の出団地—2棟 新町団地—2棟	既設町営住宅外壁防水改修工事 潮見団地—5棟	既設町営住宅外壁防水改修工事 日の出団地—2棟			
計 画 事 業 費	事業費(千円)	86,006	28,324	15,403	10,550	11,544
	財源内訳					
	国庫支出金	35,376	12,746	6,931	4,747	4,680
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	50,630	15,578	8,472	5,803	6,864	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	83,669	27,510	14,958	10,022	11,340
	財源内訳					
	国庫支出金	36,688	13,277	7,479	5,011	4,571
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	46,981	14,233	7,479	5,011	6,769	
特定財源の名称 社会資本整備総合交付金	【評価・実績】	(実施内容等) 潮見団地 屋根葺替改修 5棟 外壁防水改修 5棟	(実施内容等) 単身者住宅 屋根葺替改修 6棟 日の出団地 外壁防水改修 2棟	(実施内容等) 新町団地 外壁防水改修 2棟	(実施内容等) 旭日団地 屋根等改修工事 2棟	(実施内容等) 旭日団地 屋根等改修工事 3棟
		※事務事業評価結果 A—継続/現状維持	※事務事業評価結果 A—継続/現状維持	※事務事業評価結果 A—継続/現状維持	※事務事業評価結果 A—継続/現状維持	※事務事業評価結果 A—継続/現状維持
前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	10棟	8棟	2棟	2棟	3棟
	年度達成率	97%	97%	0%	98%	98%
第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	32%	49%	61%	74%	97%
	備考欄					

事業名	既設町営住宅団地環境整備事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者	作成者 職氏名	建築係主査	長谷川 潤

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町営住宅入居者・町営住宅	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	既存住棟の確保								
【抱える課題やニーズは】	建物更新までに相当の期間を有する団地住棟に対する適切な維持管理	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	適切な維持管理による居住環境の向上と居住住棟の長寿命化	① 改修棟数の実績	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>3棟</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>3棟</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	3棟	実績値	3棟	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	3棟										
実績値	3棟										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	安全で良好な住環境及び既存公営住宅ストックの長寿命化が確保された。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、公営住宅旭日団地3棟の屋根葺替及び外壁塗装改修を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	既存住棟・住戸について、適切な維持管理による良好な居住環境を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	適切な維持管理により、安全で安心な居住環境が確保され既存公営住宅ストックの長寿命化が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	民間業者に入札で工事を発注したことにより、事業費が抑制されたこと、改修工事の実施により維持管理費が抑制されたことは効果的と判断される。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	事業実施により、良好な居住環境が確保されたことは、公平であると判断される。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
公営住宅ストックの長寿命化に資する計画的維持管理及び居住環境向上の住環境整備は、今後も計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
居住性や安全性が確保され、長期的に活用を図る公営住宅については、長寿命化型改善事業による住環境整備は必要であり、継続・現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止